

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対する達成状況について、(A)以上の割合が9割を超えているため、概ね順調に推進することができた。 ・見守り体制の構築については、実施地区部会エリア内の自治会実施割合が、着実に伸びている。また、地区部会が自治会等と連携して、各サロン等を開催し、地域住民同士の交流の機会の提供に努めた。 ・避難所運営委員会・自主防災会では、年1回以上訓練を実施し、地域住民の防災・防犯に対する意識の高揚を図っている。
第3期の総括・今後の課題	<p>目標に対する達成状況については、(A)以上の割合が、平成27年度は84%、平成28年度は96%、平成29年度は94%と推移しており、各地区において概ね順調に推進することができた。地域活動を推進する上で、担い手の不足、町内自治会(役員の交替)や関係団体との連携強化、活動拠点の確保、継続的な活動資金の確保が課題となっている。</p>

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割) B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

◆取組みテーマ別達成状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	10	・区内の地区部会数16のうち、いきいきサロンは、重点取組地区3地区で、延188回(実施地区13地区で、延523回)、子育てサロンは、重点取組地区6地区で、延105回(実施地区15地区で、延243回)実施した。 ・地域住民が気軽に立ち寄れる交流の場(月~土曜日)を提供(1地区)。	S	1
2 健康づくり	2	・散歩クラブは、重点取組地区2地区で、延100回(実施地区6地区で、延132回)を開催するとともに、いきいきサロンでは健康体操等を取り入れ高齢者の健康維持等を行った。	S	0
3 相談体制と情報提供の充実	4	・全地区部会で広報紙を発行。重点取組地区では、ホームページにより情報提供の充実を図った(2地区)。 ・関係団体が連携し、地域課題に対応するための環境づくりに取り組んだ(2地区)。 ・町内自治会に配布している防災マップの充実を図った。(1地区)。	S	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	10	・重点取組地区3地区で、地域運営委員会が地域課題の解決に向け協議した。(区内の地域運営委員会は4地区)。 ・重点取組地区6地区全てで、災害時に備えた避難訓練を実施。なお、6地区全てに「避難所運営委員会」が設立されている。	A	9
5 見守り体制の構築	13	・14地区で見守り活動に取り組んでいる。重点取組地区13地区のうち、12地区で見守り活動を実施し、1地区では、見守り活動を啓発する取り組みを行っている。	A	12
6 防犯に対する取組み	7	・重点取組地区4地区で、学校の登下校時に合わせたセーフティウォッチャーを実施(セーフティウォッチャーは全地区で実施している)。 ・重点取組地区3地区で、青色回転灯装着車によるパトロール、児童向け安全教室、熟年者交通安全教室などを実施し、防犯対策等に取組んだ。	A	5
7 防災に対する取組み	10	・重点取組地区6地区で、災害時に迅速な避難が出来るよう、避難訓練及び防災訓練等を行い、うち3地区では、災害時に支援を必要としている人の避難支援体制を構築している。 ・重点取組地区4地区で、防災訓練や備品点検を行い、防災に対する意識の高揚を図った。	A	9
8 福祉教育・啓発	9	・1地区で、「放課後子ども教室」を実施し、子ども達が心豊かで健やかに育まれる環境づくりに努めている(放課後子ども教室は全地区で実施)。 ・2地区で、福祉に関する講座等の受講機会を提供。 ・6地区で、福祉教育の一環として車椅子体験及び敬老会に参加する機会を提供し、高齢者等との交流を図った。	A	9
9 人材確保とボランティア活動の促進	5	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする、助け合い活動について、重点取組地区3地区(実施地区7地区)で取り組んだ。 ・地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区2地区(実施地区14地区)で取り組み、受講機会を提供した。	A	5
合計	70		S	3
			A	63
			B	4
			C	0

<参考>

◆中央区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日		主な議題
平成29年度	第1回 平成29年6月23日(金)	・「中央区支え合いのまち推進計画」の平成28年度推進状況について ・第4期中央区地域福祉計画の素案について ・区支え合いのまち推進計画実施状況調査について
	第2回 平成29年9月22日(金)	・第4期中央区地域福祉計画(案)について ・第4期千葉市地域福祉計画(案)市民説明会について
	第3回 平成29年12月12日(火)	・第4期中央区地域福祉計画(案)における重点取組項目に係る具体的な取組み内容について ・地区部会エリアにおける具体的な取組みの推進状況について ・第4期千葉市地域福祉計画(案)に係るパブリックコメントの実施について
	第4回 平成30年3月22日(木)	・地区部会エリアにおける取組状況及び年度評価について ・第3期区計画の推進状況について ・支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)の策定・推進について

◆中央区内の地区部会エリア数 … 16

No.	地区部会名	活動対象区域
1	都地区部会	都町
2	末広地区部会	末広、長洲2丁目、長洲1丁目の一部、千葉寺町の一部、青葉町の一部
3	ちば中央地区部会	亥鼻、本町、中央、市場町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、 亀岡町、葛城、東本町、長洲1丁目の一部、青葉町の一部
4	西千葉地区部会	登戸、新千葉の一部、汐見丘町、春日
5	中央地区部会	弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部
6	蘇我地区部会	蘇我、今井、若草、南町
7	白旗台地区部会	白旗、鶴の森町、今井町、大巖寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、 千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部
8	松波地区部会	松波
9	松ヶ丘地区部会	松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、 宮崎町の一部
10	川戸地区部会	中央区: 川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部 緑区: 平山町の一部
11	寒川地区部会	港町、寒川町、稲荷町
12	星久喜地区部会	矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部
13	生浜地区部会	村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町
14	東千葉地区部会	東千葉
15	新宿地区部会	新宿、神明町、新田町、出洲港、中央港、千葉港、問屋町
16	中央東地区部会	祐光、椿森、道場北、院内、要町

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
都地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,269人、4,619世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24.1% 【地域の特徴】 ○都町、都町1~3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曾利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曾利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、遅れている町内自治会に対する働きかけを行う。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力員の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動を行っている。 なお、地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	見守り活動は10町内自治会中、2町内自治会で実施し、未実施の8町内自治会には働きかけを継続して実施した。
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	1	いきいきサロン都クラブとして平成25年7月から始めている。偶数月は健康麻雀や健康体操、奇数月はグラウンドゴルフや手芸を継続して実施し、定期的な活動を通して高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、65歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグラウンドゴルフ、手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配付する歳末慰問の際、いきいきサロンの案内を併せて配布した結果、参加者が増加してきている。	A	いきいきサロンは、地区内の要望を受け、平成29年度にグラウンドゴルフのサロンを1会場増設し、2会場で年16回実施した。
	⑨ 子育てサロンの充実	1	月に1度、育児サークルとして「いちごみるく」を開催し、乳幼児から就学前の子どもを持つ母親の情報交換の場を提供し、子育て親子の仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や育児相談、絵本読み聞かせ等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	子育てサロンは、1会場で年12回、継続して実施した。 地区の主な課題は、公民館等の利用しやすい活動拠点が必要である。
末広地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,467人、6,525世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 20.5% 【地域の特徴】 ○長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉も森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近では、末広街道・大網街道とも交通量の増加している。	③ 見守り体制をつくる	5	ひとり暮らしの高齢者に対して、日常的な目配りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を行う。	地区内の4町内自治会で、市から「避難行動要支援者名簿」の提供を受け、要支援者の把握をしており、町内自治会ごとに、見守り体制を構築している。 現在、3町内自治会では、民生委員が見守り活動を行っているが、地区部会では、見守り体制の強化を図るため、各町内自治会に対し、見守り協力員を募るようお願いしている。 1町内自治会で、町内自治会と民生委員が連携し、声かけによる見守りを平成29年2月から開始し、回覧板の手渡し、防犯パトロール、いきいきサロンへの参加呼びかけといった地域活動と併せて、複合的に見守りを行っている。	A	見守り活動は、4町内自治会すべてで見守り体制を構築し、民生委員を中心に見守り活動を開始した。 地区の主な課題は、役員やスタッフが高齢となっているため、新たな担い手の確保が必要である。
ちば中央地区部会エリア 【人口・世帯数】 15,690人、8,712世帯 【町内自治会数】 27町内自治会 【高齢化率】 24.9%	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	第3地区町内自治会連絡協議会が、災害時を想定した防災訓練を年1回実施する。	第3地区町内自治会連絡協議会が、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練を内容とした、防災訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んだ。 また、地区内9か所の避難所全てに避難所運営委員会が設立された。	B	第3期計画期間中に、地区内9か所の避難所全てに避難所運営委員会が設立された。
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	6	青少年育成委員会が中心となり、子ども達の安全を守るため、学校と地域が連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。	青少年育成委員会が中心となり、学校の登下校時に合わせ、セーフティウォッチャーを実施した。民生委員、町内自治会役員、老人会、育成委員等、地域全体で100名以上が協力し、子どもの安全のための見守りに取り組んだ。 交通指導員が月1回交差点に立ち、子どもの安全を見守るとともに、PTAが中心となり「子ども110番のいえ」に取り組んでいる。 子ども会主催の運動会や青少年相談員主催のクリスマス会等、地域行事を通じて子ども達と顔見知りになる機会を設けるとともに、放課後子ども教室に地域住民が協力した。	A	セーフティウォッチャーや子ども110番の家による子どもの見守り活動に地域が協力し、子どもの安全を守る取り組みを継続して実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題	
ちば中央地区部会エリア	⑮ 障がい者施設でのボランティア体験の推進	8	地区部会が、地域の障害者施設でボランティア活動を行い、障がい者との交流を図る。	地区部会のボランティア委員会が、年10回、オリーブ亥鼻福祉作業所を訪問し、パンフレット封入れ、カレンダー巻、郵便物のシール貼り等の軽作業を手伝い、交流を図った。 また、敬老会の際、オリーブ亥鼻福祉作業所の売店を設け、障がい者の地域交流に取り組んだ。	A	障がい者施設でのボランティア活動を継続して実施し、交流を図った。	
				敬老会の際、小学校、中学校、高校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。 また、地区部会が、本町小学校の4年生・5年生を対象に、福祉講話及び高齢者疑似体験を実施し、福祉の心を育む機会を提供した。 一部の町内自治会では、健康講座等を実施し福祉への啓発を行った。 放課後子ども教室に地域住民が協力し、子ども達と交流を図った。			児童の福祉教育の一環として、敬老会でのボランティア活動を継続して実施した。 また、新たな試みとして、地区部会が小学校で福祉講話や高齢者疑似体験を実施した。 地区の主な課題は、役員やスタッフが高齢となっているため、新たな担い手の確保が必要である。
西千葉地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、65歳以上の高齢者や障がい者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。なお、見守り希望者の更新は毎年行っている。	A	見守り活動は、6町内自治会すべてで、継続して実施した。	
				民生委員が中心になって、民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは毎年更新している。災害時には日常的な見守り活動を行っている協力が員が避難支援を行う体制をとっている。 また、避難所運営委員会が、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施するとともに、地区内の6町内自治会すべてで防災訓練を年1回実施した。			民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会との情報共有を継続して実施し、名簿とマップは毎年更新した。 なお、災害時には日常的な見守り活動を行っている協力が員が避難支援を行う体制をとっている。
				地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会で年1回、安否確認、避難訓練、初期消火・応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車・煙体験などの訓練や防災講座を実施した。 避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施した。			地区部会の防災講座や、6町内自治会の防災訓練等を継続して実施した。 地区の主な課題は、現状のスタッフだけでは活動を維持していただくで手一杯となっており、新たな担い手の確保が必要である。
中央地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	災害時に備えて、平常時から迅速な避難が出来るよう、地域の福祉マップを作成する。 また、避難所運営委員会が、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、訓練を実施する。	地区部会では、事業計画に基づく防災講座を通じて、住民の防災に対する意識の高揚を図る。 また、各町内自治会では、防災講座や防災訓練を年1回実施する。	A	地区部会の防災講座や、6町内自治会の防災訓練等を継続して実施した。	
				地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会で年1回、安否確認、避難訓練、初期消火・応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車・煙体験などの訓練や防災講座を実施した。 避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施した。			地区の主な課題は、現状のスタッフだけでは活動を維持していただくで手一杯となっており、新たな担い手の確保が必要である。
中央地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、各町内自治会と協議を続け、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。 (6町会のうち、2町会で実施中。)	6町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、目配りによる見守りを実施している。 既に実施している町内自治会では、見守り希望者を再募集し、活動の充実を図った。 地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけは、継続して実施している。	A	見守り活動は6町内自治会中、2町内自治会で実施し、未実施の4町内自治会には働きかけを継続して実施した。	
				地区部会が、各町内自治会と協議を続け、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。 (6町会のうち、2町会で実施中。)			地区部会が、各町内自治会と協議を続け、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。 (6町会のうち、2町会で実施中。)

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
中央地区部会エリア						
【高齢化率】 20.2%						
【地域の特徴】 ○弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。 JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。	⑤ すべての子どもを地域で育てる	6	子ども達の安全を守るため、地区部会が中心となり、関係団体や学校と連携し、子供たちがこわい目に遭った時に安心して駆け込めるよう「子ども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。(弁天小1年生38名を1回実施する。)	地区部会が、弁天小学校1年生を対象に「子ども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施した。地区部会・子供会・PTA・青少年育成委員会の役員や教頭、担任(延べ31人)が、弁天小学校の1年生30人を、2日間に分け引率し、通学路付近の「子ども110番のいえ」21軒の訪問・挨拶を行い、子ども達と110番のいえの方が顔見知りになるよう取り組んだ。 セーフティウォッチャーに地域住民が協力し、児童の安全を見守った。 地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞、歌や踊りを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた(参加者184人)。 弁天小学校の「わくわくキャンパス」(毎週木曜日、15:00~16:00)に地区部会も協力しており、ソフトボール、バスケット、マット遊び等、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを行った。(年間25回程度)	A	子ども110番の家への駆け込み訓練を新たに開始するとともに、セーフティウォッチャーに地域が協力し、子どもの安全を守る取り組みを継続して実施した。 また、児童向けの地域行事や放課後子ども教室を通じて児童の健全育成を図った。
	⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月1回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や栄養士・歯科衛生士からのお話し、紙芝居、親子体操、クリスマス飾り作り等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	子育てサロンは、1会場で年11回、継続して実施した。
	⑳ 防犯対策の推進	6	地区部会が、子ども達の安全を守るため、登下校時に「こどもみまもり隊」パトロールを実施する。 また、児童向けの安全教室を年1回実施する。	地区部会が、弁天小学校の全学年を対象に、毎朝の登校時、自宅から学校まで付き添うとともに、弁天小学校の1~2年生を対象に、毎週金曜日の下校時、校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施した。 「児童向けの安全教室」は、弁天小学校の1年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。	A	登下校時の子どもの見守り活動や、児童向けの安全教室を継続して実施した。 地区の主な課題は、現状のスタッフだけでは活動を維持していただくで手一杯となっており、新たな担い手の確保が必要である。
蘇我地区部会エリア						
【人口・世帯数】 18,358人、9,156世帯						
【町内自治会数】 8町内自治会						
【高齢化率】 15.8%						
【地域の特徴】 ○蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	4	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会とあんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所が共同し、地域における福祉課題を共有し、課題解決に向けて継続的に各種団体・機関との連携・協働を図るため、18団体が参加する「地域ケア会議」を年2回開催した。 また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。	A	第3期計画期間中に設立された地域運営委員会の活動テーマである災害時の避難体制の充実に取り組んだ。 また、地域ケア会議等を活用し、関係団体との情報交換や連携を図った。
	③ 見守り体制をつくる	5	「冷蔵庫保管用安心カード」を町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者に配布する。	地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会に加入している全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」を、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者への配布について、8町内自治会や民児協と協議し、配布することになり、地区部会が対象者を逐次訪問し、配布した。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「認知症徘徊声かけ訓練」を実施した。	A	見守り活動に対する地域の理解を深めるため、町内自治会加入の全世帯に配布した安心カードを、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者にも配布するとともに、新たな取り組みとして認知症徘徊声かけ訓練を実施した。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	災害発生時に備え、避難所ごとの「避難所運営委員会」が迅速に立ち上がるよう、年1回防災訓練を実施するとともに、避難所ごとの設備・備品の点検を行う。	地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都府市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 訓練の際は、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルを活用するとともに、マニュアルの修正が必要な箇所を改正した。 また、千葉工業高校と5町会が共同し、地域住民や高校生、蘇我保育所、ローゼンそが保育園が参加し、消火器、炊き出し、AED等の防災訓練を実施した。 なお、災害時要支援者名簿を作成し、定期的に更新している。	A	地区内4か所すべての避難所運営委員会で、設備・備品の点検を実施するとともに、1か所の避難所で、地域住民や団体が参加する防災訓練を実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題		
蘇我地区部会エリア	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2	地区部会では、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、「ふれあいいきいきサロン」を4会場(年16回)開催し、高齢者の交流の機会を提供する。	地区部会が、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として、「ふれあい・散歩クラブ」を年2回、「ふれあいいきいきサロン」を年16回実施した。特に「ふれあいいきいきサロン」では、中央区保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持に努めるとともに、落語を取り入れるなど、参加者に楽しんでもらえるようメニューを工夫した。 スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動にも、地区部会として協力した。 また、シニアリーダー体操が、蘇我いきいきセンターで、月2回行われている。	A	第3期計画期間中、いきいきサロンが1会場増設され、4会場で年16回実施した。 また、シニアリーダー体操が行われるようになり、高齢者の健康づくりの増進を図るとともに、参加者に楽しんでもらえるメニューを工夫し仲間づくりの機会を提供した。 地区の主な課題は、公民館等の利用しやすい活動拠点が必要である。		
白旗台地区部会エリア				① 地域支えあい連絡会の設置・推進	4	「地域支え合い活動検討委員会」の体制の充実を図るため、研修会等を開催し、活動の推進を図る。	地域運営委員会の活動テーマを災害時の避難体制の充実とし、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を盛り込んだ避難所運営マニュアルに基づき、地区部会内7か所すべての避難所で避難訓練を実施した。 また、地区部会では、町内自治会や民生委員等、地域の関係団体が構成メンバーとなっており、地区部会活動を通じて関係団体との連携を図っている。	A
【人口・世帯数】 25,450人、12,458世帯	③ 見守り体制をつくる	5	各町内自治会ごとに活動を進めていただき、年数回の情報交換の場を作り、遅れている町内自治会へも推進を促す。	各町内自治会ごとに見守り活動を継続している。また、各町内自治会の取組状況についての情報交換会を年2回実施し、活動のレベルアップを図った。	A	見守り活動を継続して実施するとともに、取組状況の情報交換会を実施し、活動のレベルアップを図った。		
【町内自治会数】 41町内自治会				④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	すでに作成した避難所運営マニュアルを確認し、修正が必要な箇所を改正するとともに、地域住民に広く知らせるための広報活動を進める。 コミュニティづくり懇談会では、「熊本地震から学ぶ」をテーマにした研修会を2回実施した。 また、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルの内容を確認し、修正が必要な箇所を改正するとともに、7か所すべての避難所で実施した避難訓練には、高齢者や障がい者も参加し、受け入れ訓練も実施できた。 避難所運営委員会では、女性の委員を増やすとともに、障がい者や外国人にも委員としての参加を呼びかけており、一部の避難所運営委員会では障がい者や外国人が委員として参加するようになった。 また、災害時要支援者名簿を作成し、定期的に更新している。 第9地区町内自治会連絡協議会では、49町内自治会中、45町内自治会で防災会が設立されおり、各防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回以上行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。 また、千葉工業高校主催の防災訓練に一部の町内自治会が参加した。	A	地区内7か所すべての避難所運営委員会で避難訓練を実施するとともに、福祉的配慮を必要とする人をケアする避難所運営マニュアルに改訂した。 また、避難所運営委員会には、障がい者や外国人が委員として参加するようになった。
【高齢化率】 24.5%						⑤ すべての子どもを地域で育てる	6	「あいさつ運動」の継続、「みんなでここにこあいさつしよう」ののぼり旗の交換や必要箇所に増設し、多くの住民の参加を促す。 「青色回転灯パトロール」実施者を町内自治会に協力していただき、増車・増員をして子ども達の安全を見守る。 あいさつ運動を継続して実施(新学期、夏休み明け、冬休み明けの2日間、十数か所で強化実施)するとともに、のぼり旗の交換を行った。 不審者対応として、青色回転灯装着車の協力者の増員に取り組み、蘇我中学校区内で車輛56台、協力者146人、不審者情報メール受信者141人の体制で登下校時に合わせてパトロールを実施し、子ども達の安全を見守った。 「セーフティウォッチャー」や「こども110番の家」に地域住民が協力し、児童の安全を見守った。 青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施している。 地域の子ども会では、ボーリング大会、カルタ大会、クリスマス会等を実施している。 蘇我中学校1年生を対象に、「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書を勧め、感想文募集を継続実施し、全員の感想文が寄せられた。 地区内の3小学校で「放課後子ども教室」を実施し、地域住民がボランティアとして協力した。
【地域の特徴】 ○白旗、鶯の森町、今井町、大巖寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える自治会もある。								

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
白旗台地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	1	「いきいきサロン」を継続して実施するとともに、内容の充実を図る。	地区部会が、13会場で年間164回実施しており、うち、6会場で月1回以上開催している。 サロンの内容については、交流の場の提供だけでなく、市の「出前講座」を取り入れ、ソフト面の充実も図っているところもある。	A	第3期計画期間中、いきいきサロンが1会場増設され、13会場で年164回実施し、高齢者の健康づくりや仲間づくりの機会の提供を図った。
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2	「ふれあい・散歩クラブ」を継続して実施し、高齢者の閉じこもり防止や健康維持に役立てる。 「ふれあい・いきいきサロン」やボランティア講座の中で特に高齢者に関する健康面での講座や実技を組み入れ、高齢者の健康増進を図る。	地区部会では、高齢者を対象に、月1回以上の散歩クラブを5か所で年間96回実施した。 また、いきいきサロンにおいて、中央区健康課の保健師やあんしんケアセンター職員による講話や体操を取り入れるとともに、一部のサロンではランドゴルフを取り入れており、ボランティア講座においては、食生活改善推進員による高齢者の食生活に関する講座を実施し、高齢者の健康増進を図った。 地域の町内自治会では、将来の介護予防や健康づくりの推進を目的とする健康づくりサークルが出来てきている。 シニアリーダーが、宮崎公民館で週1回、シニアリーダー体操を行っている。	A	散歩クラブやいきいきサロンでの健康体操等を継続して実施した。 また、シニアリーダー体操が行われるようになり、高齢者の健康づくりや仲間づくりの機会の提供を図った。
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	8	地域内のスポーツ振興会が主催する各種スポーツ大会に子ども達を積極的に参加させる。 今年度も地域の歴史や文化を学ぶ機会を与え、地域の中で育てているという心を育てる。	地区内の3小学校で「放課後子ども教室」を実施し、地域住民がボランティアとして協力している。 青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施している。 3小学校で、市民体育祭を実施し、その中で子どもの参加できる競技や、大人と一緒に参加する競技を増やし、健全育成と共に近所の大人と知り合いになる機会を提供した。 他にも、小学生球技大会(キックベース)、中学生球技大会(卓球)、中学生バトミントン大会等を実施した。	A	子ども達の健全育成を図るため、地区内で行われている放課後子ども教室や市民体育祭等に協力し、地域住民との交流を図った。
	⑨ 子育てサロンの充実	1	月4回の「子育てサロン」を継続実施し、子育て中の親子・地域住民との交流の場とする。 子育てに必要な知識を学ぶため、専門機関との連携も図り、講師として依頼する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、2会場で、月4回、親子とスタッフの交流、保健師による育児相談、読み聞かせ、食生活改善推進員からの話を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりを図った。 また、地域保健推進員の協力により、地域で声かけを行ったことにより、参加者の増加が図れ、新規利用者にはアンケートを実施し、内容の改善に活用している。	S	子育てサロンは、2会場で、年44回、継続して実施した。 また、新規利用者にはアンケートを実施し、内容の改善を図った。
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	8 9	29年度も年5回のボランティア講座を開催し、広く地域住民に呼びかけ、福祉力の向上と人材の発掘につなげる。	地区部会の各委員会が、地域住民、地区部会役員を対象に、既に活動している方の資質向上や、新たな担い手の発掘のための講座を企画し、計5回開催するとともに、コミュニティづくり懇談会が「熊本地震から学ぶ」をテーマにした研修会を2回開催し、地域住民の福祉力の向上に取り組んだ。 また、避難所運営委員会では、女性の委員を増やすとともに、障がい者や外国人にも委員としての参加を呼びかけており、一部の避難所運営委員会では障がい者や外国人が委員として参加するようになるとともに、障がい者に対して社協まつりや避難訓練への参加の呼びかけを行う等、地域での障がい者の社会参加の促進に取り組んだ。	A	地区部会では、新たな担い手を確保するための講座を、年5回開催した。 また、コミュニティづくり懇談会では、女性や障がい者、外国人に委員としての参画を促し、社会参加の促進に努めた。
	⑳ 防犯対策の推進	6	各町内自治会で防犯パトロールや防犯教室を開催するなど、防犯に対する意識の向上を図る。	育成委員会では、青色回転灯装着車によるパトロールを月曜日～金曜日の登下校時に実施しているが、協力者の増員に取り組み、蘇我中学校区内で車輛56台、協力者146人、不審者情報メール受信者141人の体制に強化することができた。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が、防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 また、防犯教室は、各町内自治会で地域住民を対象に実施するとともに、「こども110番の家」に地域住民が協力した。 移動交番が、南部青少年センターや宮崎公民館に開設されている。 昨年度、蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、活用する予定である。	S	青色回転灯装着車の増車や協力者の増員を図るとともに、子ども110番の家による子どもの見守り活動に地域が協力した。 また、町内自治会ごとに、防犯教室や防犯パトロールを継続して実施し、重層的に地域の防犯体制の充実・強化を図った。 さらに、蘇我中学校区の小・中学生と一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、啓発を図った。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
白旗台地区部会エリア	⑳ 防災体制の充実	7	各町内自治会で、年1回以上の防災訓練とあわせて1次避難場所等の確認を実施し、多くの住民の参加を促す。	第9地区町内自治会連絡協議会では、49町内自治会中、45町内自治会で防災会が設立されており、各防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回以上行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。 コミュニティづくり懇談会では、「熊本地震から学ぶ」をテーマにした研修会を2回実施した。 福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を加え改定した避難所運営マニュアルの内容を確認し、修正が必要な箇所を修正するとともに、7か所すべての避難所で実施した避難訓練には、高齢者や障がい者も参加し、受け入れ訓練も実施できた。 また、千葉工業高校主催の防災訓練に一部の町内自治会が参加した。	A	町内自治会ごとに防災訓練を年1回以上行い、防災体制の充実に継続して取り組んだ。 また、地区内7か所すべての避難所運営委員会で、福祉的配慮を必要とする人をケアする避難所運営マニュアルに改訂するとともに、避難訓練を継続して実施し、重層的に地域の防災体制の充実・強化を図った。 地区の主な課題は、町内自治会長の交替により、取組みが後退しないようにするための仕組みづくりが必要である。
松波地区部会エリア						
【人口・世帯数】 4,750人、2,581世帯	㉑ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月2回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、読み聞かせボランティアによる本読み、お絵かき、季節のイベント、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。 また、地区内に小規模保育所が新設され、先生が引率して子ども達が子育てサロンに遊びに来てくれるようになった。	A	子育てサロンは、1会場で、年22回、継続して実施した。 また、新設した小規模保育所との連携を図り、参加者が増加した。
【町内自治会数】 1町内自治会						
【高齢化率】 25.2%	㉒ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	3	地区部会が、地域住民に対して、地区部会事業への参加者の増加を図るとともに、地区部会活動への理解者を増やし新たな活動の担い手を発掘するため、広報誌を年12回発行する。	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告のため、A3版の社協だより「ゆめ」を年1回発行するとともに、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、A4版の社協だよりを、年12回発行した。 また、地域の関係団体(町会、地区部会、民児協、商工会、老人クラブ)のホームページにより、地域情報の発信の充実を図った。	A	地区部会活動の理解・促進を図るため、広報誌を発行するとともに、新たな取り組みとして、ホームページを作成し、情報発信に努めた。 地区の主な課題は、担い手の確保が必要である。
【地域の特徴】 ○松波町を対象としたエリア。大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。						
松ヶ丘地区部会エリア	㉓ 地域支えあい連絡会の設置・推進	4	平成27年度に設立した「松ヶ丘中学校地区地域運営委員会」において、地区の各種団体が、地区の課題や情報を共有し、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的に住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営を進める。	平成27年5月、地域の42団体が参加し、「松ヶ丘中学校地区地域運営委員会」が設立された。 本委員会に4つの部会(円卓会議、地域問題検討部会、広報部会、ふるさとまつり部会。なお、ひだまり運営部会は本年度から独立した。)を設け、地域住民の交流の場であるホームページによる地域行事等の情報発信、ふるさとまつりの開催など、諸事業に取り組むとともに、円卓会議を月1回開催し、構成団体が、地区の課題や情報を共有した。 特に重要な地域課題については、地域問題検討部会(年4回)において、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的な住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営に取り組んだ。 地域の各団体の関係が密になり、地域の様々なイベントにおいて協力体制が整ってきており、効果が表れている。 また、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。	A	第3期計画期間中に、松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が設立し、月1回開催される円卓会議において、構成団体が地区の課題や情報を共有したことにより、地域の各団体の関係が密になり、地域の様々なイベントにおいて協力体制が整った。
【人口・世帯数】 11,893人、5,625世帯						
【町内自治会数】 35町内自治会	㉔ ボランティア活動の仕組みづくり	9	ひとり暮らし高齢者支援事業として、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を継続して実施する。	地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、雑草取り、刈り込み、立木の一部伐採作業等をお手伝いし、ひとり暮らし高齢者の生活の一部を支援した。 また、地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、住民が気軽に立ち寄れる地域の交流の場を運営した。	A	地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、雑草取り、刈り込み、立木の一部伐採作業等をお手伝いし、ひとり暮らし高齢者の生活の一部を支援した。
【高齢化率】 28.5%						
【地域の特徴】 ○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年では過去においては川鉄及びその関連会社が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。						

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題		
松ヶ丘地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや電話による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を継続して実施する。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組むとともに、見守り協力員を対象にした研修会を開催し、協力員の資質の向上に努めた。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「認知症徘徊声かけ訓練」を実施した。	A	第3期計画期間中に、地区部会が、ひとり暮らし高齢者等の内、見守りを希望する方及び見守りが必要と思われる方に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組むとともに、見守り協力員を対象にした研修会を開催し、協力員の資質の向上に努めた。 また、平成29年度には、地域運営委員会が、認知症徘徊声かけ訓練を実施した。		
	⑪ 世代間交流の場の提供	1	高齢者、障がい者、児童、赤ちゃん連れの母親など、誰もが、朝から夕方まで気軽に入出入りできる交流の場を設け、世代間交流を図る。	地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、月曜日から土曜日の間、役員が当番制で開設し、誰もがいつでも立ち寄れる地域住民の交流の場を提供した。 高齢者の交流を中心に、小、中学生の自習や友人との交流の場として利用されている。 地域の各種団体の会議やイベント、親睦の場としても使用されており、他地区からの見学も増えている。 また、地域運営委員会が「ふるさとまつり」を実施し、誰でも参加できるイベントで交流を図った。	A	地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」の役員が当番制で、月曜日から土曜日の間、誰もが気軽に立ち寄れる地域住民の交流の場を開設した。		
	⑯ 中学校区相談・情報センター機能の充実	3	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載し、情報発信に努めるとともに、「ひだまり」でスタッフが気軽に相談を受け付ける体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境をつくる。	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集やPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。	A	ひだまりに、常駐役員を配置し、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。 また、地域運営委員会のホームページを随時更新し、地域情報の発信に努めた。		
川戸地区部会エリア	② ボランティア活動の仕組みづくり	9	高齢者や障がいのある方の支援事業として、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」の活動実績を上げるように努める。	平成27年4月から、地区部会が、高齢者や障がいのある方を対象に、簡易な草刈り、草むしり、簡易な大工仕事、家具の移動、電球交換、話し相手等、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を継続して実施した。 年3回行っている協力員の報告会や利用券販売協力店に地域への周知をお願いし、活動実績を上げるよう努めた結果、活動件数が増加した。	A	第3期計画期間中に、地区部会が、高齢者等を対象に、簡易な草刈り、草むしり等、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を開始した。 また、年3回実施している協力員の報告会において、問題点を整理し、協力員が活動しやすい環境づくりに努めた。		
③ 見守り体制をつくる				5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認等、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。	A	見守り活動は、13町内自治会すべてで継続して実施した。 また、年3回実施している協力員の報告会において、問題点を整理し、協力員が活動しやすい環境づくりに努めた。
⑰ 地域での福祉教育の推進				8	児童・生徒の福祉の心を育むため、地域行事や福祉施設において高齢者等とふれあう機会を設ける。	障害者グループホーム「りべるたす」の行事等に児童が参加し、施設利用者と交流を図った。 また、PTA・スポーツ振興会主催の餅つきや運動会、地域のサークルと子育てサロン(もーもークラブ)との菊見会、川戸保育園の七夕まつり、中学校の盆踊り等、地域行事を通じて、高齢者と児童の交流を図った。 放課後子ども教室に地域住民が協力している。 地区部会では、「運動機能を保って認知症を予防しよう」や「歯っぴー健口教室」を実施した。	A	障がい者施設の行事に児童が参加し、施設利用者との交流を図った。 また、地域行事を通じて、高齢者と児童・生徒の交流を図った。
【人口・世帯数】 6,965人、3,260世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 32.5% 【地域の特徴】 ○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。								

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題		
川戸地区部会エリア	⑬ 地域環境を学ぶ	8	独居高齢者が増加しているという川戸地域の環境・状況について学んでもらう機会を提供する。	地区部会が開催している敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加し、地域の高齢化について知ってもらう機会を設けるとともに、第21地区町内自治会連絡協議会が実施した避難所への避難訓練に児童・生徒が参加し、避難経路を確認しながら地域環境を知ってもらう機会を設けた。 また、PTAが通学路の安全点検を行い、児童への注意喚起を行った。	A	敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加し、地域の高齢化について知ってもらう機会を設けた。 また、避難所への避難訓練に児童・生徒が参加し、避難経路を確認しながら地域環境を知ってもらう機会を設けた。 地区の主な課題は、担い手が高齢化しており、新たな担い手の確保が必要である。		
寒川地区部会エリア				⑭ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	A	見守り活動は、6町内自治会すべてで継続して実施した。
【人口・世帯数】 5,628人、3,049世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 22.7% 【地域の特徴】 ○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。				⑮ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	地区6町内自治会の合同避難訓練を9月30日に実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実を図る。	災害時要支援者の避難支援体制を構築するため、地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、作成した「災害時要支援者及び支援者名簿」を更新した。 また、地区6町内自治会の合同避難訓練を9月30日に実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実を図った。 なお、寒川小学校に避難所運営委員会が設立されたことにより、次年度は、避難所運営委員会が防災訓練を実施する予定である。	A
	⑯ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会が、児童・生徒にボランティアとして参加できる機会を設ける。	地区部会では、寒川小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回開催した(93人の児童が参加)。 敬老会に寒川小学校・末広中学校の吹奏楽部(68人)が参加し、合同で演奏する機会を設け、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けるとともに、寒川小学校の「わくわくキャンパス」に地域住民が協力するとともに、寒川小学校の1年生の課外授業で、ボランティア委員会が中心となり、昔遊びを教える活動を通じて交流を図った。 また、健康講座を年1回実施している。 各町内自治会では、市の出前講座などを開催している。	A	地区部会では、小学校4年生を対象に、車椅子体験講座を年1回開催した。 また、敬老会に小・中学校の吹奏楽部が参加し、合同で演奏する機会を設け、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けるとともに、放課後子ども教室等に地域住民が協力し、児童との交流を図った。		
	⑰ 防災体制の充実	7	防災訓練を地区合同で実施し、防災体制のさらなる充実を図る。	地区6町内自治会の合同防災訓練を9月30日に実施した。訓練としては、災害時要支援者の避難訓練(避難確認のため要支援者に配付している「黄色の無事の文字入りタオル」の掲示確認、疑似要支援者をリヤカー等で避難させる訓練)と防災訓練(消火訓練、起震車体験、マンホールトイレ等の防災用品取扱い体験)を行い、訓練内容の充実を図った。なお、寒川小学校に避難所運営委員会が設立されたことにより、次年度は、避難所運営委員会が防災訓練を実施する予定である。	A	6町内自治会の合同避難訓練を実施し、災害時要支援者の避難支援体制の充実を図った。 また、平成29年度に、寒川小学校に避難所運営委員会が設立された。 地区の主な課題は、地区部会の基盤となる町内自治会の担い手が不足しており、新たな担い手の確保が必要である。		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
星久喜地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,730人、5,605世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 26.0% 【地域の特徴】 ○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	23町内自治会で、高齢者等に対し、各町内自治会の班長が、日常的な目配りによる安否確認を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。 各班長に「見守り協力員の証」を配付しており、また、何かあったら民生委員から町内自治会長に連絡する体制を整えている。	A	見守り活動は、24町内自治会中、23町内自治会で継続して実施した。(1町内自治会は対象者がいない)
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	1	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年8回、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。	地区部会が、70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園や都市緑化植物園の散策、中央区健康課からの話等を内容とした、いきいきサロンを年8回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。	A	いきいきサロンは、1会場で年8回、継続して実施した。
	⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、栄養士や歯科衛生士からの話、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	子育てサロンは、1会場で年10回、継続して実施した。
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	8 9	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」に関する講話や「健康体操」を実施し、健康や介護予防について学習する機会を設けた。 また、敬老会における小中学生のボランティア体験を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進に取り組んだ。	A	いきいきサロンの参加者を対象に、健康や介護予防に関する講座を実施し、受講機会の提供を行った。 地区の主な課題は、担い手が不足しており、新たな担い手の確保が必要である。
生浜地区部会エリア 【人口・世帯数】 25,373人、11,785世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 24.9% 【地域の特徴】 ○村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町を対象としたエリア。千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古くからの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	4	中央区地域活性化支援事業の補助金を受け、事業名「みんなで支え合う町づくり生浜」(H28~H30年度)として、取り組むためにも、地域運営委員会と地域の各団体との連携を強化していく。	「生浜地区地域運営委員会」の中の「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」の3つの部会で、従来の生浜地区における活動を引き継ぎ、具体化するため、継続して協議をした。 平成28年度から、中央区地域活性化支援事業の補助金を受け、事業名「みんなで支え合う町づくり生浜」(平成28~30年度)として、地域の支え合いの仕組みづくりに取り組んでいる。介護保険の改正についての勉強会を地区内4カ所で開催するとともに、民生委員の協力を得て、高齢者実態調査の際、「困りごとアンケート」を実施した。アンケート結果では「いつまでも健康で暮らしたい」「高齢者の集いの場が欲しい」という回答が多かったことから、生浜地区では健康体操を中心とした「新たな居場所づくり」を進めることになった。健康体操の担い手を育成するため、中央区健康課の協力を得て、「ヘルスサポーター養成講座」を開催し、2月から新規のサロン(週1回開催)を1カ所開設した。 また、あんしんケアセンター浜野が主催する「生浜地区地域福祉連携会議」に、地域の関係団体や福祉施設が参加し、地域課題の解決に向けた連携を図っていると、地区部会活動を通じて関係団体と連携を図っている。	A	第3期計画期間中に設立された、地域運営委員会では、介護保険制度の改正に伴う支え合いの仕組みづくりを検討するため、制度改正の勉強会や高齢者への困りごとアンケート調査を実施した。
	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が民生委員児童委員協議会や各町内自治会と協議し、見守り活動の仕組みづくりを目指す。	「生浜地区地域運営委員会」の「高齢者・要支援者部会」において、要介護者名簿のデータ確認や見守りの仕組みづくりについて検討し、また、各町内自治会と民生委員が見守りの仕組みづくりについて協議した結果、一部の町内自治会で見守り体制を構築した。	B	見守り活動は、13町内自治会中2町内自治会で実施し、未実施の8町内自治会には働きかけを継続して実施した。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	災害発生時に備え、避難所ごとの「避難所運営委員会」が迅速に立ち上がるよう、年2回、避難所開設訓練を行う。	6カ所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、年2回、避難所開設訓練及び避難訓練を行った。 第13地区町内自治会連絡協議会の13町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、2つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A	地区内6カ所すべての避難所運営委員会が、年2回、避難所開設訓練及び避難訓練を実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
生浜地区部会エリア	⑤ すべての子どもを地域で育てる	6	地区部会や町内自治会が青少年育成委員会と連携し、子どもの安全を守るため見守り活動を推進し、福祉の町づくり活動に取り組む。	学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」や「こども110番の家」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組むとともに、生浜地区地域運営委員会の「青少年部会」において、不審者情報の共有を図っている。 また、各町内自治会主催の餅つき大会や、育成委員会主催の「子どもふれあい祭り」等の地域行事を通じて、子ども達と顔見知りになる機会を設けるとともに、放課後子ども教室に地域住民が協力した。	A	セーフティウォッチャーや子ども110番の家に地域住民が協力し、児童の見守りに取り組んだ。 また、餅つき大会や子どもふれあい祭り等の地域行事を通じて、子どもと地域住民の交流を図った。
	⑮ 障がい者施設でのボランティア体験の推進	8	中学生と協力し(車椅子体験を通して)障がいについて学習する機会を設ける。	地区部会が、生浜中学校と協力し、1年生約200人を対象に、授業の一環として車椅子体験講習会を実施し、障がい者について学習する機会を設けた。今年度は、「認知症の方を見かけた時の声のかけ方」についての講習を加え、内容の充実を図った。	A	地区部会が、中学校1年生を対象に、車椅子体験講習会を実施し、福祉の心を育む機会を設けた。 また、地区内の障がい者施設で、平成29年度からボランティア活動を開始し、交流を図った。
	⑰ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	3	地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年2回発行し、状況に応じて随時、号外(臨時号)も発行する。 また、防災に関する福祉マップ的な地図も発行する。	地域福祉に関する情報を住民に提供する「地区部会だより」を年2回発行した。 また、防災マップは各町内自治会に渡しており、各町内自治会で内容の充実を図っている。	A	地区部会が広報誌を年2回発行し、住民に福祉に関する情報を提供した。 また、各町内自治会では、独自の防災マップの充実を図っている。
	⑳ 防犯対策の推進	6	交通安全意識の向上を図るため、警察等の協力を得て、交通安全教室を年1回実施する。 また、高齢者向け事業(サロン等)にも警察等と連携し、詐欺への対応など、注意喚起を促す。	地区部会では、千葉県警交通課、中央署、生浜小学校の協力を得て、高齢者及び児童とその保護者を対象に、交通安全の講話等の内容で、「熟年者交通安全教室」を年1回実施し、交通安全意識の向上に取り組んだ。 また、いきいきサロン等で、防犯に関する注意喚起を促した。 町内自治会では、防犯パトロールを行うとともに、「こども110番の家」に地域住民が協力し、防犯対策の充実を図っている。 移動交番が、生浜公民館に開設されている。	A	地区部会では、交通安全意識の向上を図るため、警察等の協力を得て、交通安全教室を年1回実施した。 また、いきいきサロンの参加者を対象に防犯に関する注意喚起を行った。 町内自治会では、防犯パトロールや子ども110番の家に協力し、防犯対策の充実を図った。
	㉑ 防災体制の充実	7	災害発生時に備え、それぞれの避難所運営委員会が迅速に立ち上げられるよう、年1回避難訓練を実施する。 また、各町内自治会が年1回以上防災訓練を実施し、地域防災体制の充実を図る。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、年2回、避難所開設訓練及び避難訓練を行った。 第13地区町内自治会連絡協議会の13町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、2つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A	地区内6か所すべての避難所運営委員会で、年2回、避難所開設訓練及び避難訓練を実施した。 また、13町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、2つの防災会が、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。 地区の主な課題は、地域の関係団体の役職を兼務している方が多く、負担が大きくなっており、新たな担い手を確保する必要がある。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
東千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,178人、2,004世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 36.1% 【地域の特徴】 ○東千葉を対象としたエリア。旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。	② ボランティア活動の仕組みづくり	9	地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)と連携し、支援体制の充実を図る。	地区部会が、高齢者等のちょっとした困りごとの支援を継続して取り組んだ。 また、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)との連携により、依頼内容に合わせて、どちらかが対応する仕組みが構築され、支援体制の充実を図ることができた。 さらに、年1回「ちょっとボランティア」協力者の勉強会を実施し、資質向上を図った。	A	地区部会が実施している支え合い活動と地域の助け合いグループが連携し、支援体制の充実を図った。
③ 見守り体制をつくる			5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや訪問による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、高齢者が安心して生活できるよう、75歳以上の高齢者を対象に「安心カード」を配付する。		地区部会が、高齢者等、支援が必要な方(6世帯)を対象に、日常的な目配りによる見守り活動に取り組んだ。 また、地区部会が、「安心カード」を作成し、民生委員の協力を得て、75歳以上の高齢者に配布した。なお、一部の町内自治会では、希望者にも配布している。
新宿地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,403人、6,671世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 16.1% 【地域の特徴】 ○新宿、神明町、新田町、出洲港、中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域があると同時に、市役所・県庁などを有する官庁街でもある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。平成29年度、問屋町、千葉港、中央港を新宿地区から分割した。	⑩ 中学校区相談・情報センター機能の充実	3	地域の高齢者増加に伴い、あんしんケアセンターと連携を強化し、民生委員、町内自治会が個別の相談に応じ、高齢者の方々が地域で安心して生活できるよう活動する。地区部会が各団体の抱える課題を共有する場を提供する。	民生委員や町内自治会が、地域の方々の個別の相談に応じ、対応が困難なケースについては、専門機関の情報を提供している。 また、隔月に実施する地区部会の役員会において、地域の関係団体の情報共有を図っている。役員会には、あんしんケアセンターに毎回参加いただき、あんしんケアセンターとも情報を共有するとともに、高齢者に関する相談が気軽にできる関係性の構築に努めている。	B	地区部会では、隔月の役員会で個別に対応したケースの情報交換を行った。対応困難なケースは、あんしんケアセンター等の専門機関に繋げ、問題の解決に努めている。 地区の主な課題は、担い手が不足しており、新たな担い手の確保が必要である。
中央東地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,474人、8,015世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 25.9% 【地域の特徴】 ○祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。千葉市都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧:国立千葉病院)がある。			③ 見守り体制をつくる	5		地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや訪問による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を継続する。
	⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年6回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年6回、親子とスタッフの交流や紙芝居等を内容とした子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。 いずれの回も保健師や看護師、歯科衛生士を迎え、講習を受けられるようにし、内容の充実を図った。	A	子育てサロンは、1会場で年6回、継続して実施した。 地区の主な課題は、サロンの会場が狭く、広い会場の確保が必要である。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対する達成状況について、(A)(S)の割合が6割を超えており、概ね順調に推進することができた。 ・「健康づくり」は設定した目標以上の成果を達成した地区もあり、特に成果があったと言える。健康に関する行事を開催することで、地域住民の健康づくりへの関心の向上に寄与した。
第3期の総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続していく中で、新しい担い手をどのように見つけていくか。 ・見守り・支え合い・防犯・防災は町内自治会の協力が必須の活動である。役員の任期が短い(1、2年)と町内自治会に対し、どのように地域福祉活動へ理解と協力を得るか。

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

◆取組みテーマ別達成状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組事例	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	2	・いきいきサロン内で地域住民が安全・安心に暮らせるための講座を実施(1地区)。 ・既存の施設を活用し、地域住民の交流の場を提供(1地区)。	S	0
			A	2
			B	0
			C	0
2 健康づくり	6	・いきいきサロン内で地域住民が安全・安心に暮らせるための講座を実施(1地区)。 ・単発、または定期的健康づくりイベントを実施(5地区)。うち1地区では参加者数が伸び続けている。	S	1
			A	5
			B	0
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	5	・広報紙にて情報提供を行っている(1地区)。 ・ホームページ作成完了。来年度公開予定(1地区)。 ・気軽に相談できる場としていきいきサロンを実施(2地区)。 ・要支援者体制づくりとして支え合いカードを地域の一部で導入(1地区)。	S	0
			A	3
			B	2
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	5	・支え合い活動を実施(3地区)。未実施地区では体制づくり検討に向けて、支え合い講座を実施(1地区)。	S	0
			A	3
			B	2
			C	0
5 見守り体制の構築	5	・見守り体制づくりの呼びかけ(2地区)と見守り活動の実施(3地区)。 ・サロンなど地域イベントへの参加呼びかけや出欠確認による広義の見守りも実施されている。また実施地区では広報活動による利用者募集も行われている。	S	0
			A	3
			B	2
			C	0
6 防犯に対する取組み	1	・4自治会にてパトロール隊を組織して活動中。残りの2自治会も今年度中実施に向けて動いている(1地区)。	S	0
			A	0
			B	1
			C	0
7 防災に対する取組み	4	・防災講座を実施(1地区)。 ・防災訓練を実施(2地区)。 ・運用マニュアルを更新した(1地区)。	S	0
			A	2
			B	2
			C	0
8 福祉教育・啓発	-		S	0
			A	0
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	-		S	0
			A	0
			B	0
			C	0
合計	28		S	1
			A	18
			B	9
			C	0

＜参考＞

◆花見川区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日		主な議題
平成29年度	第1回 平成29年6月28日(水)	・第4期花見川区支え合いのまち推進計画(素案)について ・第4期計画策定スケジュールについて
	第2回 平成29年9月29日(金)	・花見川区支え合いのまち推進計画について ・花見川区支え合いのまち推進計画の概要について ・今後の策定スケジュールについて ・計画の進行管理について
	第3回 平成30年3月16日(金)	・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について ・花見川区支え合いのまち推進協議会委員任期の変更について ・生活支援コーディネーターによる地域資源の紹介 ・支え合いのまち千葉推進計画について

◆花見川区内の地区部会エリア数 … 13

No.	地区部会名	活動対象区域
1	検見川地区部会	検見川町、南花園2丁目の一部
2	花園地区部会	花園、花園町、浪花町、瑞穂、朝日ヶ丘4丁目、南花園1丁目、南花園2丁目の一部
3	横橋地区部会	横橋町、千種町、三角町
4	こてはし台地区部会	大日町、内山町、宇那谷町、横戸台、横戸町の一部
5	幕張・武石地区部会	武石町、幕張6丁目
6	花見川地区部会	柏井町、柏井、花島町、横戸町の一部、花見川6・7街区
7	花見川第2地区部会	天戸町の一部、花見川1~5街区、8・9街区
8	朝日ヶ丘地区部会	朝日ヶ丘1~3丁目、西小中台、宮野木台の一部
9	こてはし台地区部会	こてはし台
10	天戸中学校区地区部会	長作町、長作台、作新台、天戸町の一部
11	さつきが丘・宮野木台地区部会	さつきが丘、宮野木台の一部
12	幕張本郷中学校区地区部会	幕張本郷、幕張町1丁目の一部
13	畑地区部会	畑町、朝日ヶ丘5丁目

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8～10割)
 B:一部目標を達成した。(5～7割)
 C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,117人、6,123世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 20.3% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町	⑱ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます	7	防災意識を高めるための研修会の実施。2回実施を目標とする。	予定された研修会も町内会計画によるものを含め、全て行われ、避難所運営委員会の立ち上げの方向で動き出している。	B	町全体に防災意識を広めていくのは大変ですが、少しずつですが皆に防災の重要性が浸透し、効果があがってきている。
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 21,317人、9,597世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 22.0% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアに関する情報等を共有し、わかりやすい情報として、発信・受信するための仕組みづくりに努めます	4,5	「向こう三軒両隣」の延長線上にある「日常的な見守り活動」の奨励と実施状況の把握に努める。H29年度は5自治会実施を目標とする。	民生委員による訪問活動、サロン活動などの活動は順調だが、自治会活動としては各自治会の伝統的な行事を超えて行うことは難しいのが現状です。花園地区部会として実施している、敬老会・ふれあい食事は年々参加者が増えていて、これに伴う参加の確認等で、地域全体としての助け合いのレベルは上がっているが、助け合いの仕組みづくりという認識にまで繋がらない。	B	大型自治会の花園文化会に助け合いの仕組みができて、目標の90%は活動しているとのことで、当地域の目標となっている。今後は、身近なこの事例を発展させていきたい。
	⑮ 地域を支える様々な福祉活動、ボランティア活動などの情報や、福祉サービスに関する情報等を共有し、わかりやすい情報として、発信・受信するための仕組みづくりに努めます	3	「避難行動要支援者名簿に関する条例に対応した仕組みづくり」を定着させるために、ネットワークを活用し、情報の把握・提供を行う。そのため既に実施している自治会を例に民児協、自治会と協力する。H29年度は5自治会実施を目標とする。	花園文化会で「避難行動要支援者対策」で「カード方式」により、特定の要支援者ごとの仕組みができたことは特筆すべきことですが、残念ながら他の自治会ではそこまで行っていない。	B	機会あるごとにPRを行っているが、自治会ごとに特性が異なり同一歩調は難しい。事例発表など地道な呼びかけが必要である。
	⑱ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます	7	「避難所運営委員会」当部会としては花園中・花園小・花園公民館・瑞穂小の4箇所を抱えることになる。H29年度は防災訓練年4回実施を目標とする。	花園地区部会の全ての避難所に「避難所運営委員会」ができて、活動を行っている。また、大型自治会の殆どが、市の提供する名簿を取得しているので活動の根拠はできた。民生委員による、要支援者マップも準備されている。避難所開設訓練もそれぞれ実施されている。	A	避難所運営委員会の重要性は認識されているが、一斉訓練など住民参加の呼びかけを強化したい。地域運営委員会への問題提起を行っていく。
朝日ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,211人、5,213世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 33.6% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	③ 地域住民が、安全・安心に気軽に活動できるよう、挨拶・声かけなど、親しみ、ふれあう環境づくりを推進します	1,2	現在、朝日ヶ丘公民館で「あんしんケアセンター―花園」と「千葉市消費生活センター」から講師を招き、講演会を実施している。安全・安心に暮らすための情報を提供する講座を開催するなど、内容の充実を図りたい。	7/4にあんしんケアセンターによる講座を開催済み。内容は新設されたあんしんケアセンターにれの木台の紹介と健康寿命について。消費生活センターの講座は3月に開催予定。安全・安心な暮らしのために必要な知識や相談場所などを情報提供し、地域住民の自助・共助意識の向上に寄与した。	A	あんしんケアセンターの講座では認知症や健康、あんしんケアセンターについて、消費生活センターの講座ではその年に流行している詐欺への注意喚起について話してもらった。地域住民にとって有意義な内容の講座を開くことができた。来年度以降も継続して取り組んでいきたい。
	⑤ 住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツなど健康づくりの機会に積極的に参加し、心身の健康づくりに努めましょう	2	現在、年2回朝日ヶ丘中学校の体育館を借りて専門講師による「介護予防の健康体操」を実施している。またH28年度より朝日ヶ丘つくし自治会でも講座が開始されている。継続と普及に努めたい。	11/5に介護予防の健康体操講座を実施し、約57名の参加があった。3/11にも開催。朝日ヶ丘つくし自治会館でのいきいきサロン内健康体操講座も継続している。地域住民の健康づくりのきっかけの場となっている。	A	参加者は概ね増加しており、独自開催の朝日ヶ丘つくし自治会館での体操講座も順調である。来年度以降も継続的に開催し、地域住民の健康増進へ寄与したい。
	⑮ 地域を支える様々な福祉活動、ボランティア活動などの情報や、福祉サービスに関する情報等を共有し、わかりやすい情報として、発信・受信するための仕組みづくりに努めます	3	広報誌「ふれあい」をさらに内容を充実させていきたい。また、「交流広場ふれあい」を開催し、だれでも気軽に参加できるよう、さらに内容の充実を図る。	交流広場ふれあいを7月と11月の2回実施した。広報誌は6月と10月の2回発行済。地区部会の活動内容や今後の予定のほか、防犯・防災に関する注意喚起や健康・介護予防に役立つ体操の紹介など、福祉に関する様々な情報を提供している。	A	交流広場ふれあいは一部をサロンとして独立するなど回数は減ったが、ニーズの高い内容に絞って開催を継続している。広報誌は開催したイベントの紹介だけでなく、防災メモや認知症チェックリストなど様々な福祉情報が盛り込まれた内容となっている。いずれも地域住民の情報のプラットホームとして来年度以降も継続していく。
	⑯ 地域行事やいきいきサロン等を利用して、住民相互が交流できる機会を増やしていくとともに、気軽に相談できる場の確保に努めます	3	各自治会が取り組んでいるサロン活動について、各自治会が月2回程度のサロン活動をするにより地域見守り活動の一助としたい。	地区部会主催のサロンの他に、西小中台自治会にて24回、宮野木台さつき自治会にて年4回、朝日ヶ丘つくし自治会にて年10回、計年38回いきいきサロンが各自治会にて開催されている。地域住民の交流の場として、また身近な相談窓口、見守り・安否確認の場としてサロンが機能している。	A	サロンはそれぞれの自治会館にて定期的に開催されており、誰もが気軽に集える居場所かつ身近な相談場所として機能している。来年度以降も継続的な開催を見込んでおり、地区部会としても支援していく予定である。
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,633人、5,043世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 29.4% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	② 活動場所を確保するため、コミュニティセンター・公民館などの公の施設や自治会館・集会所、地域にある空き家、空き店舗、福祉施設などの既存の施設を有効利用した居場所づくりを推進します	1	犢橋地域福祉交流館におけるイベント事業の拡充及び利用率向上を目的とした利用団体数の増加並びに地区部会主催による子育て支援・高齢者の健康づくり講習等を実施し、世代を超えた様々な交流を促進し、地域住民の絆の醸成に努める。前年度に対し、団体登録数・年間利用延人員を拡充し、イベント事業・講習会の実施を継続する。	29年度事業は、なお2か月間残っているが前年度に比し、利用団体数は同程度であるが、利用延人員は減少傾向にある。その他、餅つき大会等のイベント事業及び講習会の開催については、予定通り実施した。	A	当犢橋地区部会の活動拠点である犢橋地域福祉交流館を活用した餅つき大会等各種イベント事業や子育て講座等の実施により、交流館の利用が促進され、かつ、世代を超えた交流と地域住民の絆の醸成に努めることができた。
こてはし台中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,601人、4,090世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 26.8% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	⑤ 住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツなど健康づくりの機会に積極的に参加し、心身の健康づくりに努めましょう	2	地域の高齢者の仲間づくりや健康増進が図れるよう、定期的なイベントや講習会を開催する。	健康体操講習会(主に実技)を横戸小学校体育館で10月に開催、9地区町内会から約100名参加した。体操講師指導の下、遊びを入れた合同体操を行う、その後全員で食事をし、情報交換を行う。参加者は楽しんでいただろうと思う。	A	3年間に亘り、「千葉市支え合いのまち」推進計画を全住民に知ってもらうことに意義があることと思い自治会の回覧版を通じて、この講習の参加者を募集した。9地区の町内自治会から万遍なく参加してもらい、体操や時にはダンスも交え、口も利き楽しんでもらいました。1年1回に約100人の参加で実施し地域の交流に役立ったと思う。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
- A:概ね目標を達成した。(8～10割)
- B:一部目標を達成した。(5～7割)
- C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
幕張・武石地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,257人、2,164世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 27.5% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。	⑬ 地域行事やいきいきサロン等を利用して、住民相互が交流できる機会を増やしていくとともに、気軽に相談できる場の確保に努めます	3	年間19回実施している「ふれあい・いきいきサロン」で、レクリエーション的項目に研修的項目を加え、内容の充実を図る。H29年度は19回開催予定。	今年度は、レクリエーション的項目として、グランドゴルフ、クリスマス会、敬老会等を実施し、研修的項目としては、認知症予防講座(あんしんケアセンター)や老人ホーム見学等を実施するなど、内容の充実を図ることができた。	A	年19回(月2回)実施の「いきいきサロン」の内容を今後も充実させ、参加者一人一人の心の豊かさと健康保持に寄与したい。
花見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,358人、10,838世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 39.3% 【地域の特徴】 戸建住宅(昭和30年代後半より入居)、農林地帯、UR団地(分譲)、マンション群の混在地域。	⑦ 地域参加支援事業など介護予防活動の普及に努めます	2	地域参加支援事業の出席者数を前年度比4～5%増とする。	(1)会場の広さの制約もあり出席者を増やせない。 (2)合計30回中3回で出前講座を開催しているが出前講座の普及があまり進んでいない。 開催地区のリーダーに開催を呼びかけたい。健康課、あんしんケアセンターの話だけでは時間が余ると思う。	S	(1)参加者間の交流の場とするとともに自治会や地区部会行事の日程や犯罪の発生状況や傾向を説明する貴重な場となった。 (2)健康づくり、健康相談、血圧測定、困りごと相談、出前講座、食事会等の複合的な活動拠点とすることができた。 今後はますます人手が不足するので単体活動(例:認知症カフェ、子ども食堂等)を多数やるよりできるだけまとめて複合的に活動することが重要になる。
花見川第2地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,735人、11,735世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 39.3% 【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	これまでの、見守り体制を浸透させるとともに、家にこもりがちな高齢者に外に出る機会を提供し、お互いが助け合える関係づくりの構築を目指す。 ・見守り体制の浸透(ボランティアの充実と、研修等の実施) ・高齢者同士の仲間づくりの推進(講座、イベントの実施)	郵便物や配付物、洗濯物の確認など外からの見守りを継続して実施した。 また、ふれあい喫茶や食事会、社協まつりを開催し、高齢者が地域に出て様々な年代と関わり交流する機会を作った。 また、高齢者の健康増進と仲間づくりのため、健康体操講座やグラウンドゴルフ交流会も開催した。	A	各自治会にて見守り活動を実施。役員会や定例会での見守り情報の交換や対象者情報の更新などを実施し、活動内容の向上に努めた。 また、地区部会としても高齢者向けの様々なイベントを実施して、高齢者が地域に出るきっかけをつくり、孤立予防・地域とのつながりづくりを促した。 次年度以降も活動を継続していきたい。
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,211人、2,851世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 48.1% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	「見守り・声かけ事業の推進」 ・利用者の募集促進 ・見守り協力員募集	利用者、見守り協力員の募集を行い、一定の成果があった。特に協力員は17名(災害時安否確認協力員)が新たに加わった。	A	見守り事業実施以降、不測の事態もなく推移した。 利用者の希望に添った見守り活動ができています。 地域内で利用ニーズは高いと判断。今後とも見守りの重要性を認識して利用者の募集に努めたい。
【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 31.9% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	⑮ 地域を支える様々な福祉活動、ボランティア活動などの情報や、福祉サービスに関する情報を共有し、わかりやすい情報として、発信・受信するための仕組みづくりに努めます	3	「ホームページ作成の企画・立案」 ・関係箇所(地域内)との打ち合わせ(29年度)	ホームページの発信できる状況まで準備完了。今後、発信内容(写真の個人情報保護等)を十分にチェックし、3月末日を目途に発信していく。	B	当初予定より1年ほど遅くなった。 今後は、地域の関係箇所に対し、ホームページへの参加を働きかけ、ホームページ内容の拡大、充実を図り、情報の共有に努める。
【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 31.9% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	⑯ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実にも努めます	7	「避難所運営委員会の設立と推進」 ①運用マニュアルの充実 ②訓練実施(第3回)	・運営マニュアルの整備、運営委員の変更等を行った。 ・訓練を実施した(9月3日(日))。130名参加。	B	設立以降、運営委員会会議を重ねて、運営マニュアルの作成、訓練の実施を展開してきた。 今後とも継続して訓練を実施していく。
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 19,021人、8,342世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 31.9% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	個人として地域活動・福祉活動に理解・協力の得られる方々の掘り起しに力点を移し、見守り・助け合い活動のネットワーク化を進めたい。	見守りは6人ほどで一旦動き出したが、事故・事件の際の責任などを重く感じるなどの問題があり、継続することが難しい状況である。組織としてではなく個人個人で地域のなかで注意していくという形で見守っていく。また、見守りの必要性は継続的に訴えていき、協力員が参加しやすいシステムも検討していく。 支え合いは地域の先行実施団体と連携して実施できないか検討していく。	B	町内自治会単位ではなく、意欲のある方を募り、支援する側・される側を分けない相互での見守り・支え合い活動を目標として設定した。また、地域住民の関心を高めるため、支え合いや地域包括ケアシステムに関する講座を開くなど、体制づくりに向けての地盤構築に取り組んだ。 見守り・支え合いとともに、より取り組みやすいシステム構築を目指して今後も検討を続けていく。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
- A:概ね目標を達成した。(8～10割)
- B:一部目標を達成した。(5～7割)
- C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
<p>さつきが丘・宮野木台地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 10,803人、5,197世帯</p> <p>【町内自治会数】 15町内自治会</p> <p>【高齢化率】 34.1%</p> <p>【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。</p>	<p>⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます</p>	4,5	「ご近所助け合い」事業を、気軽かつ便利に、支援を受けやすいように、システムの改善を実施する。また、結果を受けて更に向上すべく修正を行う。	表立ったシステム変更は無かったが、コーディネーターが活動しやすいように、内々では対応できた。	A	当初、1つの委員会に任せていたが、地区部会全体で取組み、改善に務めた。
<p>幕張本郷中学校区地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 24,768人、12,023世帯</p> <p>【町内自治会数】 4町内自治会</p> <p>【高齢化率】 12.7%</p> <p>【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。</p>	<p>⑤ 住民自ら健康への関心を高めるとともに、イベントや講習会、スポーツなど健康づくりの機会に積極的に参加し、心身の健康づくりに努めましょう</p>	2	現在、幕張本郷公民館で、地域高齢者の仲間づくりや交流の場となる「健康セミナー」等のボランティア講習会を年1回開催しているが、これを今後3年間も維持、継続していけるように工夫・努力していく。	6/30、第9回健康セミナー「チャレンジ運動講習会」を開催。 (講師：女性スポーツプログラマー、参加者：36名) コンセプトは「いつまでも若々しく過ごすために」、「実際に身体を動かしてみよう」という呼びかけで、多くの方々の参加を頂いた。 ヘルスチェック・健康づくりのお話を交えながら、「楽しく簡単ストレッチ」「頭を使いながら筋力アップ体操」「ヨーロッパ生まれのゲーム『ポッチャ』に挑戦」と、楽しみながらの運動実技を取り入れた指導法であり、中身の濃い楽しい運動体験ができた。地域の皆さんが、これを機会に日々健康維持・向上のための運動習慣をつけていただければとスタッフ一同願っています。	A	①年1回継続実施の目標を達成することができた。 ②特にスタッフ間のコミュニケーションが良好で、準備・段取り作業の標準化が図られ、テーマ選定の話し合いや運営の仕方も慣れ、一連の作業への負担が大幅に軽減された。 ③参加募集の広報のやり方の工夫改善により参加人数が増え維持されている。 ④スタッフ同士が積極的に協力し合って、楽しみながら運営することができ、達成感とやりがいを感じる事ができ、次への動機づけともなった。 今後共自らが健康への関心を深めて頂ける様なセミナーを実施していきたい。
<p>畑地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 6,174人、2,720世帯</p> <p>【町内自治会数】 6町内自治会</p> <p>【高齢化率】 32.3%</p> <p>【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域とその後比較的新たにできた住宅地域を含む地区</p>	<p>⑥ 高齢者向けのスポーツの推進やサークル活動への参加促進に努めます</p>	2	現在、一本松公園や幕張台公園で、地域高齢者の仲間づくりや交流の場となるふれあいグラウンドゴルフ大会を実施している。線路を境に北側の公園と南側の公園を会場に実施しているが、北側住民の方々の参加が低調で、実施が危ぶまれる事態もある。検討・工夫を加え、年1回の実施を維持継続していく。	4/15、幕張1、幕張本郷1・2・3丁目地区の町内会々員42名の競技者の方々と、ボランティア委員会他スタッフ9名の総勢51名が参加して行われた。 当日天気は晴れだったが、時々想定外の風速約13メートルの強風が吹く中、ポストが倒れるのを防ぐため、9人のスタッフが笑顔で支えながらの思い出に残る大会になった。 そんな天候を物ともせず、皆さんプレーに集中し、和気あいあいと賑やかに楽しいひと時を過ごすことができ、今回も大変好評であった。	A	①従来は、春・秋2回/年の開催であったため、秋にはスポーツ振興会の開催時期と接近し、地域住民や関係者から「分りにくい」「一方にまとめて欲しい」等の要望を受けて対策検討を重ね、27年度より地区部会の秋開催を断念し、春開催のみとし、2地域を交互で1回/年に変更・改善した。 これにより問題は解消し、かつスタッフにおいても企画運営に集中でき、より内容を充実させるという好結果にもつながった。 ②一本松公園や幕張台公園でのグラウンドゴルフ大会が、地域高齢者の仲間づくりや交流の場・ふれあいの場として、地域に根差した恒例行事として認識されるようになった。 ③今後とも高齢者向けのスポーツの推進活動促進の一環として継続実施したい。
<p>畑地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 6,174人、2,720世帯</p> <p>【町内自治会数】 6町内自治会</p> <p>【高齢化率】 32.3%</p> <p>【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域とその後比較的新たにできた住宅地域を含む地区</p>	<p>⑦ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます</p>	6	全町内自治会それぞれにパトロール隊を組織し、防犯パトロールを実施する。H29年度は6町内自治会での組織・実施を目標とする。	4自治会で定期的にパトロールを実施している。 2自治会については、今年度中に実施に向けて動いている。	B	全自治会、パトロール隊組織は難しいが、パトロールの実施は可能である。 安心して暮らせる地域づくりの意識は各自治会に浸透してきた。 「ついでにパトロール」を意識して、散歩のついで、買い物ついでに、役員会のついで、チョット頑張っパトロールを実施するように推進する。
<p>畑地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 6,174人、2,720世帯</p> <p>【町内自治会数】 6町内自治会</p> <p>【高齢化率】 32.3%</p> <p>【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域とその後比較的新たにできた住宅地域を含む地区</p>	<p>⑧ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます</p>	7	全町内自治会それぞれに防災会を組織する。H29年度は6町内自治会での組織を目標とする。	地区部会としては特になし。	A	防災については、自治会中心で活動している為、地区部会としての活動はありません。 地区部会では、情報交換の場所として現状の報告をしています。 畑町会→畑コミュニティセンター 畑が丘、サニータウン→畑小学校 みのわ台自治会、ホームランド、東部→朝日ヶ丘小学校

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会や町内自治会、民児協などが連携協力し、いきいきサロンの拡充(9か所増)などにより、多くの高齢者に対して健康づくりや介護予防の啓発の拡充を図ることができた。 ・地区部会が社会福祉施設の理解を得る中、新たに地域交流スペースを活用したサロン活動を開始するなど居場所づくりの拡大を図ることができた。
第3期の総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会をはじめ地域の各種活動団体が連携協力し、幅広い世代層が交流できる機会(イベントなど)を拡充するなど、継続して取り組むことができた。 ・地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携協力し、いきいきサロンなどを拡充(15か所増)するなど、多くの高齢者に対して健康づくりや介護予防に普及啓発に取り組んだ。 ・町内自治会を中心に災害時に備えた防災訓練や避難訓練、避難所運営委員会が継続して取り組むなど、住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。 ・引き続き、地域の各種活動団体が連携協力し、既存の活動を工夫するなどし、幅広い世代層が交流する機会や住民同士の見守り、健康づくり・介護予防の普及啓発など、住民同士がつながりをもてる地域活動を継続していく必要がある。 ・地区部会をはじめ地域の各種活動団体が相互に連携協力し、地域活動の協力者を確保していく必要がある。

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割) C: 大きく目標を下回った。(~4割)

◆取組みテーマ別達成状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	20	<ul style="list-style-type: none"> ・2地区部会が近隣の福祉施設の理解を得る中、地域交流スペースを活用したいいきいきサロンを新たに開始するなど、居場所づくりに取り組んだ。 ・地区部会が町内自治会等と連携・協力し、幅広い世代間の交流が図れるイベントを継続実施するとともに、広報紙やロコミなどの周知により、幅広い世代の参加促進に取り組んだ。 	S	1
			A	19
			B	0
			C	0
2 健康づくり	14	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会が、あんしんケアセンター等と協働し、地区を複数のエリアに分けて講座を開催し、認知症や介護予防の情報提供に取り組んだ。 ・地区部会が、町内自治会や民生委員、福祉施設等と連携協力し、いきいきサロンの拡充(9か所増)を図るとともに、介護予防の普及に取り組んだ。 	S	0
			A	14
			B	0
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会をはじめ、町内自治会や民児協、青少年育成委員会等の各種団体が、相互に会議やイベント等に参加して活動情報等を共有し、広報紙などを通じて地域活動の情報発信に努めた。 	S	0
			A	5
			B	0
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	12	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会等の団体が、地域のイベント活動を実施する際、相互に連携協力し、地域活動に取り組んだ。 ・地区部会が、民児協や町内自治会等と連携協力し、地域住民に対して、地域活動についての関心や理解、協力を得られるよう、企画内容を工夫して講座などに取り組んだ。 	S	0
			A	11
			B	1
			C	0
5 見守り体制の構築	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会が町内自治会や民児協と連携協力し、一人暮らし高齢者等に声かけやあんしんカード、防犯パトロールなどにより地域における見守り活動を継続して取り組んだ。 ・3地区部会が民児協と協力し、あんしんカードの配布や更新を行うなど継続して取り組んだ。 	S	1
			A	4
			B	0
			C	0
6 防犯に対する取組み	11	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会と青少年育成委員会が、地域住民や商店等に対して「こども110番のいえ」の協力者の確保を働きかけた他、児童・生徒の登下校時におけるセーフティウォッチャーの確保に努めた。 ・町内自治会を中心に警察等と連携し、防犯パトロールの強化などにより地域内防犯への取り組みを強化した。 	S	0
			A	11
			B	0
			C	0
7 防災に対する取組み	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会が公民館と連携して防災講座を開催するなど、地域住民に対して災害時における危機意識の向上に取り組んだ。 ・町内自治会自主防災組織が防災講座や避難訓練を開催(34会場)し、地域の防災意識の向上に取り組んだ。 	S	0
			A	4
			B	0
			C	0
8 福祉教育・啓発	-	-	S	0
			A	0
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地区における各種団体が新たな活動の担い手を確保するため、相互の活動に連携協力した。 ・地区部会が、福祉活動推進員など地域で活動できる新たな人材の確保や育成に取り組んだ。 	S	1
			A	2
			B	0
			C	0
合計	74		S	3
			A	70
			B	1
			C	0

<参考>

◆稲毛区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日		主な議題	
平成29年度	第1回	平成29年4月28日(金)	(1)稲毛区支え合いのまち推進計画(第4期稲毛区地域福祉計画)の策定について
	第2回	平成29年6月28日(水)	(1)稲毛区支え合いのまち推進計画の平成28年度の推進状況について
			(2)稲毛区支え合いのまち推進計画の平成29年度の取り組みについて
			(3)稲毛区の先駆的な取組事例について
	第3回	平成29年9月25日(月)	(4)稲毛区支え合いのまち推進計画(第4期稲毛区地域福祉計画)(素案)について
			(1)稲毛区支え合いのまち推進計画(第3期)の推進状況について
			(2)稲毛区支え合いのまち推進計画(第4期)(原案)について
			(3)市民説明会について
			(4)支え合いのまち稲毛(稲毛区推進協だより)の発行について
			(5)生活支援サービス活用ガイドについて
	第4回	平成30年3月12日(月)	(6)社会福祉法人における地域の公益的取組について
			(1)支え合いのまち千葉推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)及び稲毛区支え合いのまち推進計画(第4期稲毛区地域福祉計画)の策定について
(2)稲毛区支え合いのまち推進計画(第3期稲毛区地域福祉計画)の取組みのまとめ			
(3)支え合いのまち稲毛(稲毛区推進協だより)の発行について			
(4)委員の選任について			
(5)地域福祉活動の紹介について ・301(作草部・天台)地区支え合いの会 ・認知症徘徊声かけ訓練			

◆稲毛区内の地区部会エリア数 … 12

No.	地区部会名	活動対象区域
1	小中台東地区部会	小中台町、園生町の一部、宮野木町の一部
2	山王地区部会	山王町、小深町、六方町、長沼原町の一部
3	轟・穴川地区部会	轟町、穴川、穴川町
4	稲毛地区部会	稲毛、稲毛町、稲毛東5~6丁目
5	稲丘地区部会	稲丘町、稲毛台町、稲毛東1~4丁目、稲毛1丁目の一部、
		黒砂4丁目の一部、小仲台1丁目の一部
6	千草台中学校地区部会	千草台、萩台町、天台町、天台2~6丁目
7	草野地区部会	あやめ台の一部、園生町の一部、長沼町の一部、長沼原町の一部
8	緑が丘地区部会	柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部
9	301(作草部・天台)地区部会	作草部、作草部町、天台1丁目
10	緑・黒砂地区部会	緑町、黒砂、黒砂台1丁目~2丁目
11	小中台西地区部会	小仲台1丁目の一部~9丁目
12	弥生地区部会	弥生町、黒砂台3丁目の一部

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
<p>小中台東地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 40,688人、8,972世帯</p> <p>【町内自治会数】 33町内自治会</p> <p>【高齢化率】 24.3%</p> <p>【地域の特徴】 園生町から小中台町、宮野木町の一部によるエリアで、本村と呼ばれる古くからの住民が暮らす地区と、戦後のベッドタウン開発によって造成された戸建住宅や集合住宅の地区、そして大型のマンションの並ぶ地区が混在しており、基本的に起伏の大きな地形のため、エリア内での徒歩や自転車による移動は高齢者にとって負担が大きなものとなっており、大きな移動に関しては車や公共交通機関に頼る所が大きい。</p>	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	地区部会が、町内自治会、学校、青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語を募集し、「東西社協まつり(10月)」や広報紙(地区部会だより「かわら版」)などで標語作品の広報啓発を図るとともに、セーフティウォッチャーなどと連携・協力して、地域の中でのあいさつの浸透に努める。	地区部会が、あいさつをテーマにした標語を広報紙(かわら版)や町内自治会の掲示板、小学校4校(小中台・小中台南・園生・柏台)を通じて募集し、「東西社協まつり(10/29)」で優秀作品を発表並びに表彰を行うとともに、地区部会だよりなどを通じて広報啓発を行い、地域の中でのあいさつ運動の普及に取り組んだ。また、セーフティウォッチャー(柏台小13人)が、学校周辺において、児童・生徒の登下校時のあいさつ運動に取り組んだ。	A	<p>・地域の中であいさつ運動の普及啓発を図るために、学校と連携協力し、標語募集を継続して行うなど、継続して取り組んだ。</p> <p>・健康づくりや介護予防の普及啓発を図るために、情報提供する機会(講座など)を工夫するなど、区健康課やあんしんケアセンター等と連携協力して取り組んだ。</p> <p>・引き続き、地区部会や町内自治会、民児協など各種関係団体が相互に連携協力し、住民同士が交流する場や情報提供する機会を継続して取り組んでいく必要がある。</p>
	② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1	地区部会が、町内自治会や商店街、小・中・高等学校などと連携・協力し、「サマーフェスタ(年1回)」や「東西社協まつり(年1回)」などのイベントを開催するとともに、広報紙など通じて、幅広い世代の参加促進を図る。	地区部会が、町内自治会や民児協、商店街、小・中・高等学校、区健康課などと連携・協力し、「東西社協まつり(10/29)」や「サマーフェスタ(8/6 270名参加)」を開催するとともに、町内自治会の回覧やチラシ、ロコミ、新聞記事掲載などを通じて、幅広い世代の参加促進を図った。	A	
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会、学校などが、相互に地域活動の情報を共有するとともに、地域のイベントなどを実施する際、連携・協力に努める。	地区部会や町内自治会、民児協、学校など地域の各種団体が、相互の会議等に参加し、情報共有に努めるとともに、各種団体が開催するイベント等の連携・協力に努めた。	A	
	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会が、町内自治会や民児協など連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、日常的な声かけなどによる安否確認等、見守り活動実施地区の拡充に努める。	6町内自治会が、一人暮らし高齢者等に対して、声かけや訪問などによる安否確認等、見守り活動を継続して取り組むとともに、1町内自治会が見守り活動実施に向けて働きかけを行った。また、民児協や町内自治会の協力を得る中、エリア内の75歳以上の高齢者に対して、見守り・支え合いに関するニーズ把握に取り組んだ。	A	
	⑥ 地域での福祉講座の開催	4	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課、町内自治会、民児協と連携し、地域住民に対して「認知症講座(年3回)」や「健康づくり講座(年3回)」、「子育て支援講座(年1回)」を開催し、健康等に関する相談や予防に関する情報提供を行う。	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課と連携し、高齢者などに対して「認知症講座」「健康づくり講座」を3エリアで企画実施し、認知症予防や健康づくりに関する情報提供を行った。	A	
	⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	地区部会が、町内自治会や商店街、小・中・高等学校などと連携・協力し、「サマーフェスタ(年1回)」や「東西社協まつり(年1回)」などのイベントを開催し、幅広い世代の参加促進を図る。	地区部会が、町内自治会や民児協、小・中・高等学校などと連携・協力し、「東西社協まつり(10/29)」や「サマーフェスタ(8/6)」を企画・開催し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	
	⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	地区部会が町内自治会や福祉施設などと連携・協力し、町内自治会会館や福祉施設などにおいて、いきいきサロン(年108回)や子育てサロン(年24回)を実施し、住民同士が集える場の充実に努める。	地区部会が、町内自治会や福祉施設などと連携・協力し、町内自治会会館や福祉施設などにおいて、いきいきサロン(10か所に増設)や子育てサロンを実施し、住民同士が集える居場所づくりに取り組んだ。	A	
	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課、町内自治会、民生委員と連携し、高齢者向けに「健康づくり講座(年3回)」を開催し、健康相談や健康に関する情報提供を行い、健康増進を図る。	地区部会が、区健康課や民生委員と連携し、高齢者向けに「健康づくり講座」を3エリアで企画実施し、健康づくりなどに関する情報提供を行うとともに、散歩クラブ(1か所)を実施し、高齢者の健康増進に取り組んだ。	A	
	⑩ 地域でできる介護予防の普及	2	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課、町内自治会、民児協と連携し、高齢者向けに「認知症講座(年3回)」を開催し、認知症予防に関する情報提供を行う。	地区部会があんしんケアセンターと連携し、高齢者などに対して「認知症講座」を3エリアで企画実施し、介護予防に関する情報提供を行った。	A	
	⑪ 地域の情報の収集と発信	3	地区部会が、町内自治会などと連携・協力し、相互に地域の活動の情報を収集するとともに、広報紙(年4回)などにより地域住民が必要とする情報を発信する。	地区部会が、町内自治会の会議やいきいきサロン等の地域活動の中で情報収集するとともに、広報紙(「ふれあい小中台東」「かわら版」を3回発行)や地域新聞などにより、地域住民に対してイベントなどの情報提供に取り組んだ。	A	
	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	地区部会が、民児協と連携・協力し、75歳以上の高齢者に対して、「あんしんカード」の更新を行うとともに、「救急医療キット」の配布を行い、緊急時に迅速に対応できるよう支援体制づくりに努める。	地区部会が、民児協と連携・協力し、75歳以上の高齢者に対して、緊急時に迅速に対応できるよう、あんしんカードの更新(419人)に努めた。また、町内自治会と千葉市との間で避難行動要支援者名簿の協定締結を進め、災害時の迅速な支援体制づくりを進めた。	A	
	⑭ 住民一人ひとりの危機意識の向上	7	町内自治会が、千葉市消防署などと連携・協力し、地域住民に対して、防災訓練などを行うとともに、地区部会が町内自治会に向けて、災害に備えた情報交換会(年1回)を開催し、住民一人ひとりの危機意識の向上を図る。	13町内自治会において、千葉市消防署などと連携・協力し、地域住民に対して防災訓練を行うなどして住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。また、地区部会が「災害講座(12月)」を町内自治会に向けて企画実施し、住民一人ひとりの危機意識の向上を図った。	A	
	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	地区部会や町内自治会、民児協などが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、日常的な声かけなどによる安否確認等、見守り活動と並行して、防犯パトロールなどにより地域の防犯活動の充実に努める。	6町内自治会が、一人暮らし高齢者などに対して、声掛けや訪問などによる安否確認などの見守り活動を行い、また、1町内自治会の防犯パトロールなどにより地域の見守り活動に取り組んだ。	A	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
山王地区部会エリア 【人口・世帯数】 17,680人、6,857世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 27.4% 【地域の特徴】 古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	学校やセーフティウォッチャーが、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などと連携・協力し、児童・生徒の登下校時において、特に小学生へのあいさつのかけあいを増やすなど、あいさつ運動を継続して行うとともに、防犯パトロールの際に声かけをするなど、住民同士のあいさつが浸透していくよう努める。	地区部会が、青少年育成委員会や町内自治会、学校と連携・協力し、セーフティウォッチャーを中心に、山王小学校・山王中学校の周辺において、登下校時に児童・生徒にあいさつ運動を行った。また、町内自治会が行う防犯パトロールの際、地域住民に声かけを積極的に行うなど、あいさつの浸透に努めた。	A	・青少年育成委員会や町内自治会、学校と連携協力し、児童生徒の登下校時や防犯パトロールを行う際に、あいさつや声かけを継続的に取り組んだ。 ・見守り活動の拡充には至らなかったが、青少年育成委員会が「子ども110番のいえ」の登録者の増に努めるなど、住民同士の見守りに取り組んだ。 ・引き続き、町内自治会や地域活動団体と相互に連携協力し、住民同士の見守りに取り組んでいく必要がある。
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが、相互に地域活動の情報を共有するとともに、地域のイベントなど実施の際、相互に連携・協力を努める。	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが、相互の情報共有やイベントなどの地域活動の実施の際、連携協力を努めた。	A	
	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、日常的な声かけなどによる安否確認等、見守り活動実施地区の拡充に努める(新規1)とともに、いきいきサロン実施か所において、活動内容を充実し、参加者の増を図る。また、地区部会と民生委員が連携・協力し、高齢者のみの世帯に対して緊急IDカードの案内に努めるとともに、緊急時の対処法など理解促進に努め、住民同士の見守り活動に取り組む。	新たに見守り活動の拡充には至らなかったが、3町内自治会が継続して一人暮らし高齢者等に対して、訪問、声かけなどによる安否確認を行うとともに、民児協の協力を得る中、75歳以上の高齢者に対して見守り・支え合いのニーズ把握に取り組んだ。また、いきいきサロンの6か所(71回 延べ790人)で実施するとともに、地区部会と民生委員が連携・協力し、高齢者のみの世帯等に対して緊急IDカードを配布(449枚)し、見守りの支援に取り組んだ。	A	
	⑭ 住民一人ひとりの危機意識の向上	7	町内自治会が、千葉市消防署などと連携し、地域住民に対して防災訓練を行うとともに、公民館と地区部会が協力して防災講座(年1回)などを実施し、災害時に備えた住民一人ひとりの危機意識の向上を図る。	3町内自治会自主防災が、地域住民に対して防災訓練や、山王公民館と地区部会が共催して防災講座(9月)を実施するなど、災害時に備えた危機意識の向上に取り組んだ。	A	
	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	町内自治会や青少年育成委員会が、連携・協力し、地域住民に対して、「こども110番のいえ」の協力者の確保に努めるとともに、町内自治会と警察などが連携・協力し、防犯パトロールを通じて、住民同士の見守り活動による防犯体制の充実に努める。	青少年育成委員会が、地域住民や商店等に対して、「こども110番のいえ」の協力者の確保に努めるとともに、町内自治会と警察が連携・協力して行う防犯パトロールにおいて、福祉活動推進員も声かけ運動に参加協力するなど、住民同士の見守りに取り組んだ。	A	
	轟・穴川地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,362人、5,447世帯 【町内自治会数】 23町内自治会 【高齢化率】 23.4% 【地域の特徴】 戦時中、稲毛区役所、稲毛保健福祉センター等の敷地は戦車学校が建つ軍用地であった。その後が開発が進み、エリアには戸建て住宅、市営・県営住宅、マンション等が立ち並ぶ。文教のまちの呼称でも親しまれ、公共機関(教育施設、行政施設等)を内包する。	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力を努める。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協などが、相互に連携・協力し、敬老会や防災訓練、よい子の広場(いきいきサロン)などの活動を継続的に取り組んだ。	
⑨ 健康づくりの普及・啓発		2	地区部会が、町内自治会や老人クラブ、区健康課などと連携・協力し、高齢者に対して、いきいきサロン(年98回)や散歩クラブ(年12回)などを実施し、健康増進を図る。	地区部会が、町内自治会や老人クラブなどと連携・協力し、高齢者に対して、いきいきサロン10か所(計112回開催。延べ1,026名参加 うち新規1か所)、散歩クラブ(1か所 12回開催 延べ70名参加)を実施するなどし、健康増進に取り組んだ。	A	
⑬ いざというときに必要な情報把握		6	町内自治会が、千葉市と連携し、平常時から災害時要支援者の把握をするなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに努める。	新たに2町内自治会が、千葉市と連携し、避難行動要支援者名簿の協定を締結、また、2町内自治会が、地域住民が災害時に迅速な対応ができるよう防災訓練を行った。	A	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題		
稲毛地区部会エリア								
【人口・世帯数】 11,791人、4,842世帯	③ 地域で活動している人・組織 同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、地域のイベント(敬老会やふれあい広場など)などを実施する際、相互に連携・協力に努める。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会、青少年育成委員会など地域で活動する関係機関が、敬老会や夜灯し祭などのイベントを相互に連携・協力して企画実施するなど、地域活動に取り組んだ。	A	・住民同士が交流する場の拡充を新たに図るとともに、多くの高齢者に健康づくりや介護予防の普及啓発に継続して取り組んだ。 ・引き続き、地域の活動団体が相互に連携協力して、地域活動に取り組む必要がある。		
【町内自治会数】 16町内自治会			⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	地区部会が、千葉市教育委員会や町内自治会などと連携・協力し、公民館や町内自治会館などにおいて、ふれあい食事サービス(年2回)やいきいきサロン(年36回)、子育てサロン(年6回)、ふれあい広場(年1回)など住民同士の集える場の充実に努める。		地区部会が、町内自治会などと連携・協力し、公民館や町内自治会館において、ふれあい食事サービス(年2回)やいきいきサロン(4か所 37回 延べ495人)、子育てサロン(2か所 7回 延べ240人)を実施した。 また、福祉施設(いなげー倫荘)で新たにいきいきサロンを実施することができた。	S
【高齢化率】 21.8%			⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターと連携し、地域住民に対して、いきいきサロン(年36回)や子育てサロン(年6回)、散歩クラブ(年1回)などを通じて、健康体操や歌の会、健康相談などを行い、健康増進を図る。		地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターと連携し、地域住民に対して、いきいきサロン(4か所 37回 延べ495人)や子育てサロン(2か所 7回 延べ240人)などを実施するとともに、健康相談などを通じて健康増進に取り組んだ。	A
【地域の特徴】 南北に延びる稲毛区の最南に位置し、昭和の埋め立てが始まる前は、浅間神社の下に東京湾が広がり、あさりと海苔のまちとして栄えた。エリア内にはJR線と京成線が走り、また、南部には国道も敷かれており、どこへの移動も大変便利である。			⑩ 地域でできる介護予防の普及	2	地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターと連携し、高齢者に対して、いきいきサロン(年36回)、散歩クラブ(年1回)などを通じて健康体操や歌の会、健康相談などを行い、介護予防を図る。		地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターと連携し、高齢者に対して、いきいきサロン(4か所 37回 延べ495人)などを通じて健康体操や歌の会、健康相談や能力測定などを実施し、介護予防に取り組んだ。	A
稲丘地区部会エリア								
【人口・世帯数】 15,321人、5,222世帯	① 挨拶から始まる地域との関わり ② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進 ③ 地域で活動している人・組織 同士の連携・協力 ④ 地域住民の参加による支援や見守り ⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成 ⑥ 地域での福祉講座の開催 ⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流 ⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり ⑨ 健康づくりの普及・啓発	1 1 4 5 9 4 1 1 2	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努める。	町内自治会や学校、稲丘小PTA、青少年育成委員会、セーフティウォッチャー(12人)などが連携・協力し、稲丘小の登下校時に通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、町内自治会が防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつ運動に継続して取り組んだ。	A	・地区部会をはじめ各種活動団体が相互に連携協力し、住民同士が交流する場づくりに継続して取り組んだ。 ・いきいきサロンを拡充するなど、住民同士の交流の機会や健康づくり、介護予防の普及啓発に継続して取り組んだ。 ・町内自治会を中心に地域住民に対して防災訓練の実施や要支援者への支援体制づくりなど、災害時に備えた活動に継続して取り組んだ。 ・各種活動団体が、既存の活動を継続していく上で、相互に連携協力し、活動協力者の確保に努める必要がある。		
【町内自治会数】 6町内自治会(+1マンション区*)			② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが企画実施するイベント(夏祭り・地区運動会、餅つき大会など)に、幅広い世代が参加できるよう、町内自治会などの広報により、多くの地域住民の参加促進を図る。		地区部会や町内自治会、スポーツ振興会が、夏祭り(7・8月)や敬老会(9月)、餅つき大会(1月)など地域内イベントを企画実施するとともに、町内自治会などの広報や民生委員、学校、ロコミなどを通じて、多くの地域住民の参加促進に取り組んだ。	A
【高齢化率】 19.1%			③ 地域で活動している人・組織 同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、地域のイベントなどを実施する際、相互に連携・協力に努める。		地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協、警察などが、相互に連携・協力し、夏祭りや敬老会など地域のイベントや防犯・防災活動などに継続して取り組んだ。	A
【地域の特徴】 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。 集合住宅と戸建住宅が混在する稲毛の台地部で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。 エリアは6つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区(*地番では小仲台)が小学校区は稲丘小であるため、稲丘地区部会の活動に参加しているという事情がある。			④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会や町内自治会などが連携協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロン(年36回)や地域のイベントなどの機会を通じて声かけによる安否確認を行うとともに、地域内の要支援者の情報共有に努め、住民同士の見守りの支援に努める。		地区部会や町内自治会などが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロン(3か所)やグラウンドゴルフ等の機会を通じて声かけや、地域内の要支援者の情報共有を行うなど、住民同士の見守りの支援に取り組んだ。 また、1町内自治会で見守り・支え合いの活動の取組について、情報共有の機会を設けた。	A
			⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際、相互に活動協力者の確保に努める。		地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、敬老会や夏祭り、地区運動会などを実施する際に、相互に活動協力者の確保に努めた。 また、福祉活動推進員を市社協主催の研修に派遣するなど、人材の育成に取り組んだ。	A
			⑥ 地域での福祉講座の開催	4	地区部会が、町内自治会などと連携し、地域住民に対して市政出前などの講座(年1回)を企画実施し、地域活動の理解者や協力者の確保に努める。		地区部会が、町内自治会などと連携し、地域住民に対して、地域活動の理解を深め、活動協力者の確保を図るために、市政出前講座を企画実施した。 また、1町内自治会単位での防災訓練や講座に取り組んだ。	A
			⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、連携・協力して、イベント(夏祭り・地区運動会、餅つき大会など)などを企画実施し、幅広い世代の参加・交流を図る。		地区部会や町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携・協力して、夏祭り(7・8月)や敬老会(9月)などの地域内イベントを企画実施するとともに、町内自治会などの広報や民生委員、学校、ロコミなどを通じて、多くの地域住民の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A
			⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	地区部会が町内自治会と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、ふれあい食事サービス(年16回)やいきいきサロン(年36回)、子育てサロン(年11回)を実施し、住民同士が集える場の充実に努める。		地区部会が、町内自治会と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、ふれあい食事サービスやいきいきサロン、子育てサロンなどを実施し、住民同士が集える居場所づくりに継続して取り組んだ。	A
			⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	スポーツ振興会や町内自治会が、連携・協力し、地域住民に対して、地区運動会(年1回)などを開催するとともに、地域住民に対して参加を促し、健康増進を図る。		スポーツ振興会や町内自治会が、相互に連携・協力し、グラウンドゴルフ大会(7月)や地区運動会などを実施するとともに、町内自治会の回覧やロコミなどを通じて地域住民に参加を促し、健康づくりの普及・啓発に取り組んだ。	A

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題			
稲丘地区部会エリア	⑩ 地域でできる介護予防の普及	2	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携し、高齢者に対して、いきいきサロン(年36回)やグラウンドゴルフ等を実施し、介護予防の相談や情報提供を行い、介護予防を図る。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会が、いきいきサロン(3か所)やグラウンドゴルフ大会(7月)などを実施し、高齢者に対しての介護予防に取り組んだ。	A				
	⑪ 地域の情報の収集と発信	3	地区部会が町内自治会など各種団体と連携・協力し、相互に地域の活動を情報収集するとともに、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報を発信する。	地区部会の役員会において、各種団体が行う活動情報の収集や、各種団体の会議などに相互に参加し、情報を共有するとともに、地域住民に対して、地区部会(7月発行 3,000部)や町内自治会の広報紙などにより、地域の活動の情報発信に取り組んだ。	A				
	⑫ 身近な地域の相談相手の確保	3	地区部会や町内自治会、民児協などが、各々の活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努める。	地区部会や町内自治会、民児協などが、各々の活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努めた。	A				
	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	町内自治会が、千葉市等と連携・協力し、地域住民に対して避難訓練等を実施するとともに、平常時から災害時要支援者の把握や避難所運営等の支援体制の強化に努める。	4町内自治会が、千葉市や学校などと連携・協力し、災害時に迅速な対応ができるよう備蓄品など、避難所運営の支援体制の強化に取り組んだ。	A				
	⑭ 住民一人ひとりの危機意識の向上	7	町内自治会が、千葉市消防局等と連携し、地域住民に対して、避難訓練や避難所開設・運営訓練を実施するとともに、防災講座などを行い、住民一人ひとりの危機意識の向上を図る。	1町内自治会(9月時点)が、地域住民に対して、防災訓練(避難訓練や炊き出し訓練など)を行い、住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。	A				
	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	町内自治会などが警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために、防犯パトロールを行い、地域の防犯の抑止力を高める。	4町内自治会が警察と連携し、防犯パトロールを行うとともに、地域住民の防犯意識の向上に取り組んだ。	A				
千草台中学校地区部会エリア	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、地域のイベントなどを実施する際、団体相互の連携・協力を努める。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、夏まつりや敬老会などのイベント活動を実施する際に、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組んだ。	A	・地域の各種活動団体が相互に連携協力して、イベントなど住民同士が交流する場づくりに継続して取り組んだ。 ・高齢者に対して健康づくりや介護予防の普及啓発を図るために、シニアリーダー体操を新たに開始するなど、健康増進に取り組んだ。 ・引き続き、既存の活動を継続するとともに、地域の各種活動団体が相互に協力して、活動協力者の確保を図る必要がある。			
【人口・世帯数】	⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	町内自治会やスポーツ振興会、地区部会などが、連携・協力して、イベント(神輿やどんど焼き、地区運動会、文化祭)などを実施し、幅広い世代の参加・交流を図る。	町内自治会が、夏祭り(7月)や敬老会(9月)、スポーツ振興会が夏休みのラジオ体操や地区運動会(10月)を継続実施するとともに、町内自治会などの広報紙等を通じて、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。 また、5団体(地区部会・コミ懇・スポーツ振興会・青少年育成委員会・20地区連協)が実行委員会形式で文化祭(11月)や昔遊び(1月)を継続実施し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A				
10,782人、5,397世帯									
【町内自治会数】									
9町内自治会									
【高齢化率】									
32.9%									
【地域の特徴】	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会や町内自治会などが、区健康課と連携し、ティータイム(年24回)やちびっこ保育(年96回)などを通じて、高齢者や乳幼児向けに健康に関する相談や情報提供を行う。	地区部会や町内自治会が、区健康課と連携し、高齢者や乳幼児向けにティータイム(月2回 延べ300人)やちびっこ保育(毎週2日)などを実施し、健康相談や情報提供を行うとともに、町内自治会が子どもから大人までを対象にラジオ体操(7・8月)を実施するなど、健康増進に取り組んだ。 また、シニアリーダーが、高齢者の方に対して、公民館でシニアリーダー体操を新規に開始し、健康づくりに取り組んだ。(11回 延べ246人)	A				
2,100世帯から成る千草台団地を中心に、戸建て、マンション等がある全9自治会で構成されている。エリア内には千葉県総合スポーツセンターがあるほか、千葉都市モノレールも走り、また京葉道路と国道で分断されているのも特徴的である。最近では萩台町の旧水田地帯に新築戸建の開発が進んでいる。前記の千草台団地の高齢化率は区内3位の40.4%である。									
⑩ 地域でできる介護予防の普及						2	地区部会や町内自治会などが、高齢者に対してラジオ体操やグリーンデイ活動、憩いの場(ティータイム 年24回)などを通じて、介護予防の意識の向上を図る。	地区部会や町内自治会が、高齢者に対して、ラジオ体操(7・8月)やグリーンデイ活動(毎月1回)、ティータイム(月2回 延べ145名参加)などを実施し、介護予防に取り組んだ。 また、シニアリーダーが、高齢者の方に対して、公民館でシニアリーダー体操を新規に開始し、健康づくりに取り組んだ。(11回 延べ246人)	A
⑬ いざというときに必要な情報把握						6	町内自治会が、千葉市と連携・協力し、平常時から災害時要支援者を把握するなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに努める。	3町内自治会が、千葉市消防署などと連携・協力し、地域住民に対して、避難訓練や炊き出し訓練を行うなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに取り組んだ。	A

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
草野地区部会エリア 【人口・世帯数】 38,454人、8159世帯 【町内自治会数】 21町内自治会 【高齢化率】 28.4% 【地域の特徴】 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがっている昔は山だらけだったという地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は、昭和41年に入居開始から48年が経過、約半世紀を経た今、稲毛区内で5番目の高齢化率(37.2%)、住民の3人に1人は高齢者となっている。	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	町内自治会や青少年育成会などが、あいさつの標語を広報紙などを通じて広報啓発するとともに、住民同士のあいさつを通じて、子どもから大人までが顔なじみの関係づくりに努める。	町内自治会や青少年育成会などが、あいさつの標語を町内自治会の広報紙などにより広報啓発するとともに、セーフティウォッチャーや住民同士のあいさつを通じて、子どもから大人までが顔なじみの関係づくりに努めた	A	・地域の各種活動団体が相互に連携協力して、イベントなど住民同士が交流する場づくりに継続して取り組んだ。 ・高齢者が気軽に集えるいきいきサロンを拡充や、NPOと町内自治会が連携し、食を介して交流する居場所づくりが図られた。 ・町内自治会を中心に防災避難訓練の実施や要支援者への支援体制づくりなど、災害時に備えた危機意識の向上に継続して取り組んだ。 ・引き続き、各種活動団体が連携協力し、既存の活動を継続するとともに、広報紙や口コミ等を介して、活動協力者の確保にtごり組む必要がある。
	② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1	町内自治会やスポーツ振興会などが連携協力し、幅広い世代が参加できるイベント(夏祭り・地区運動会など)を企画するとともに、町内自治会などの回覧等の広報により参加促進を図る。	町内自治会やスポーツ振興会などが、夏祭り(7月・8月)や敬老会(9月)、地区運動会(10月)などのイベントを継続実施するとともに、町内自治会の広報紙(各戸回覧)やロコミなどにより、多くの地域住民の参加促進に取り組んだ。	A	
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが実施するイベントなどの活動において、広報等で活動協力者を募るなど、各種団体間の連携・協力を努める。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが実施する夏祭りなどの地域活動において、広報等で協力者を募るなど、各種団体間の連携・協力を努めた。	A	
	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会や町内自治会、民児協などが連携・協力し、地域住民に対して、緊急時に備えて「あんしん登録カード」や「救急医療情報キット」を配布するとともに、いきいきサロン実施か所を1か所増やして、平常時から住民同士の見守りの機会の拡充を図る。	地区部会や町内自治会が、地域住民に対して、緊急時に備えて「あんしん登録カード」や「救急医療情報キット」の配布や、いきいきサロン(2か所新設)を通じて住民同士の見守りに取り組んだ。	S	
	⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際、相互に連携・協力するとともに、広報等で活動協力者の確保に努める。	各種活動団体が、イベントなど地域活動の際に、相互に参加・協力するとともに、町内自治会などの広報紙などを通じて、地域の活動協力者の確保に取り組んだ。また、新規のいきいきサロンの立ち上げと併せて、活動協力者を新たに確保することができた。	S	
	⑥ 地域での福祉講座の開催	4	地区部会が、地域活動の理解や協力を得るために、地域住民に関心をもってもらえる福祉講座(年2回)などを実施する。	地区部会が、民児協や町内自治会などと連携・協力し、地域住民に対して地域の活動などに関心をもってもらえるよう、愛唱歌の集いや手話講座(シニアサイン)を継続して取り組んだが、新たな企画の実施には至らなかった。	B	
	⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが、連携・協力し、夏祭りや地区運動会などのイベントを企画実施し、幅広い世代の参加・交流を図る。	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会、青少年相談員などが連携・協力し、夏祭り(7月・8月)やラジオ体操(8月)、敬老会(9月)などを継続実施し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	
	⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	区部会が町内自治会や民生委員などと連携・協力し、町内自治会館や集会所、公民館などにおいて、いきいきサロン(年82回)や子育てサロン(年23回)、ふれあい食事サービス(年1回)を実施し、住民同士が集える場の充実に努める。	地区部会と町内自治会、民生委員などが連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロン(2か所新設)や子育てサロン、ふれあい食事サービス、敬老会、あやめ会(B型リハビリ教室)などを継続して実施し、住民同士が集える場づくりに取り組んだ。	A	
	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力し、地域住民に対して、いきいきサロン(年82回)や散歩クラブ(年23回)、地区運動会(2地区)などを行い、健康増進を図る。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、地域住民に対して、いきいきサロン(2か所新設)や散歩クラブ、あやめ会(毎月一回)など継続して実施し、幅広い世代への健康増進に取り組んだ。	A	
	⑩ 地域でできる介護予防の普及	2	地区部会が、町内自治会や民児協、あんしんケアセンターなどと連携し、高齢者に対して、いきいきサロン(年82回)や散歩クラブ(年23回)などを行い、健康体操や情報提供などを行うことにより、介護予防を図る。	地区部会と町内自治会、民児協などが連携・協力し、高齢者に対して、いきいきサロン(2か所新設)や散歩クラブ、歌の会(愛唱歌の集い)、あやめ会(毎月一回)など継続して実施し、介護予防に取り組んだ。	A	
	⑪ 地域の情報の収集と発信	3	地区部会や町内自治会などが連携・協力し、相互に地域活動などの情報を収集するとともに、地域住民に対して、各種団体の広報紙などを通じて地域活動などの情報を発信する。	地区部会や町内自治会、青少年育成委員会などが、相互に会合などを通じて、地域の活動情報を共有するとともに、地域住民に対して、地区部会だより(「福祉くさの」7・11月(予定)発行)や「町内自治会だより」、「育成委員会だより」などを発行し、地域活動の情報提供に取り組んだ。	A	
	⑫ 身近な地域の相談相手の確保	3	地区部会や町内自治会、民児協などが、各々の活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努める。	地区部会や町内自治会、民児協などが、各々の活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築くなど、身近な相談相手となる関係づくりに努めた。	A	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題		
草野地区部会エリア	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	町内自治会が、民児協等と連携・協力し、地域住民に対して、緊急時に備えて「あんしん登録カード」や「救急医療情報キット」を配布するとともに、要支援者名簿を作成し、災害時などにおける支援体制づくりに努める。	町内自治会の一部が、緊急時に備えて「あんしん登録カード」や「救急医療情報キット」を配布するとともに、12町内自治会(自主防災会)が、千葉市消防署などと連携し、地域住民に対して防災訓練、避難訓練などを実施し、災害時に迅速対応できるよう支援体制づくりに取り組んだ。	A			
	⑭ 住民一人ひとりの危機意識の向上	7	町内自治会が、千葉市消防局と連携し、地域住民に対して、防災意識を高めるために防災訓練を年1回実施するとともに、「あんしん登録カード」や「救急医療情報キット」を配布するなど、災害時における支援体制づくりに努める。	12町内自治会(自主防災会)が、千葉市消防署などと連携し、地域住民に対して防災訓練、避難訓練などを実施及び企画するなど、住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。 また、町内自治会の一部が、クリーンデーと階段会議と併せて安否確認訓練を行い、災害時に備えた危機意識の向上に取り組んだ。	A			
	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	地区部会や町内自治会、青少年育成委員会、警察などが連携し、地域住民に対して、防犯パトロールや防犯ウォーキングなどを実施し、地域の防犯の抑止力を高める。	町内自治会や青少年育成委員会が連携・協力し、地域住民に対して、夏祭りなどの際に、防犯パトロールなどを行うとともに、草野エリアでは、町内自治会が千葉北警察署と連携・協力し、青色パトロールを行うなど、地域内の防犯活動に継続して取り組んだ。	A			
緑が丘地区部会エリア	② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1	町内自治会や青少年育成委員会、スポーツ振興会などが企画実施するイベント(夏祭り・緑ピック・地区運動会)に、幅広い世代が参加できるよう、町内自治会などの回覧等の広報により、多くの地域住民の参加促進を図る。	町内自治会(7・8月「夏祭り」)や青少年育成委員会(9月「緑ンピック」)などが、継続的にイベントを企画実施するとともに、町内自治会の回覧や口コミにより、多くの地域住民の参加促進に取り組んだ。	A	・地域の各種活動団体が相互に連携協力し、イベントなど既存の活動を継続的に取り組んだ。		
【人口・世帯数】 48,596人、8,159世帯		③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会など、地域の各種団体が企画実施するイベントなどの活動に際し、相互に連携・協力して活動の場づくりに努める。	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会など、地域の各種団体が企画実施するイベント活動や防犯活動において、相互に連携・協力を努めた。		A	・引き続き、各種活動団体が連携協力し、既存の活動を継続するとともに、広報媒体等を活用し、活動協力者の確保に努める必要がある。
【町内自治会数】 21町内自治会			9	幅広い世代が、地域の活動に関心を持ち、担い手として参加・協力を得られるよう、各種団体が相互に活動に参加・協力するとともに、近隣住民と顔なじみの関係をつくり、担い手の確保に努める。	地区部会や町内自治会、青少年育成委員会など、各種活動団体が活動協力者を確保するために、相互にイベントや会議など、地域の活動に参加・協力し、近隣住民と顔なじみの関係をつくることに努めた。 また、福祉活動推進員を新たに1人確保するとともに、市社協主催の研修に参加するなど、人材の育成に取り組んだ。		A	
【高齢化率】 28.4%	301(作草部・天台)地区部会エリア	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	青少年育成委員会を中心に、地域内のあいさつ運動を継続的に実施する。特に大人へのあいさつ運動の浸透に取り組むとともに、地区部会などの広報紙や、ポスターなどにより広報啓発を図る。また、町内自治会やセーフティウォッチャーなどと連携・協力して、引き続き、地域の中であいさつの浸透に努める。	青少年育成委員会を中心に、セーフティウォッチャー(20人)などが協力し、学校の近隣などにおいて児童・生徒の登下校時に、あいさつ運動を継続的にやり、地域の中でのあいさつの浸透に努めた。	A	・地域の各種活動団体が連携協力し、既存の活動を継続実施するとともに、新たに幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組んだ。	
【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれている。町がつく場所には古くからの住民と、最近立ち始めた戸建て等に転入してくる新しい方とが融合している。		③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会、地区部会、PTAなど地域の各種団体が相互に連携・協力し、それぞれ特徴あるイベントの充実に努める。	町内自治会やスポーツ振興会、地区部会、PTAなどが相互に連携・協力し、「夏祭り」や「グラウンドゴルフ大会」、「社協まつり」、「夏休みラジオ体操大納会」などの地域活動に取り組んだ。	A		
【人口・世帯数】 10,229人、3,625世帯		⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	スポーツ振興会や地区部会、青少年育成委員会、PTA、町内自治会などが、連携・協力して、「地区運動会」「社協まつり(敬老会)」「地域交流会」「都賀の子まつり」町内自治会各種事業を継続実施するとともに、新たに「夏休みラジオ体操大納会」(8月)を企画するなど、イベントへの参加者・ボランティア協力者など、幅広い年齢の人々が活躍できるように工夫しながら交流の場づくりに取り組む。	スポーツ振興会や町内自治会、地区部会など各種活動団体が、イベントなどを継続的に実施するとともに、イベントを介して幅広い世代の参加・協力、活躍できる交流の場づくりに取り組んだ。 また、町内自治会・スポーツ振興会・PTA・地区部会共催の「第2回夏休みラジオ体操大納会」(8月)を行い、以降毎年行うこととした。	A		・青少年育成委員会などが、「子ども110番のいえ」の拡大に努めるなど、地域の防犯活動の充実に取り組んだ。
【町内自治会数】 14町内自治会	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、いきいきサロン(年105回)、散歩クラブ(年10回)、グラウンドゴルフ、ラジオ体操などを実施し、健康づくりへの参加者を増やし、健康増進を図る。	地区部会が、いきいきサロン(11か所)や散歩クラブ(1か所)、各町内自治会がラジオ体操、スポーツ振興会が「あるけあるけ大会」「グラウンドゴルフ大会」を継続実施するなど、幅広い世代に対して、健康づくりの場を設けて健康増進に取り組んだ。	A	・引き続き、地域の各種活動団体が連携協力し、創意工夫を図り、既存の活動を継続して取り組んでいく必要がある。		
【高齢化率】 25.0%		⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	青少年育成委員会などが、商店、事業所、住民等の協力を得て、緊急時の「こども110番のいえ」や、登下校を見守るセーフティウォッチャーの協力者の確保に努めるとともに、町内自治会で行っている防犯パトロールなどを通し、防犯活動の充実に努める。	青少年育成委員会などが、商店、事業所、住民等の協力を得て、緊急時の「こども110番のいえ」(181か所)や、登下校を見守るセーフティウォッチャー(20人)の協力を得るとともに、5町内自治会の防犯パトロールを通じて、地域内の防犯活動に取り組んだ。		A	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
緑・黒砂地区部会エリア 【人口・世帯数】 8,959人、3,661世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 22.3% 【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目~2丁目エリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数も多く、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	地区部会が、町内自治会や民児協などと連携・協力し、高齢者等に対して、日常的な声かけなどによる安否確認等による見守り活動を引き続き取り組む。また、利用者や協力者にアンケートを実施し、今後の課題の把握に努める。	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、高齢者等に対して、声かけなどによる安否確認等による見守り活動に継続して取り組むとともに、防犯ステッカーを作成(10枚)し、防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組んでいる。	A	・住民同士の見守り活動を継続して取り組んだ。 ・地域の各種活動団体と連携協力し、住民同士で支え合う活動に取り組んでいく必要がある。
小中台西地区部会エリア 【人口・世帯数】 21,420人、8,637世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 22.2% 【地域の特徴】 小中台1丁目から9丁目までがエリアであり、昔からの旧戸建て住宅の旧住民と、新設の大型マンションに転入して暮らす新住民とが混在しているのが特徴である。	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	地区部会が、あいさつをテーマにした標語を地区内小中学校(4校)にて募集し「あいさつ・声かけ運動」を実施するとともに、「東西社協まつり」(11月)や広報紙などで標語作品の広報啓発を行う。また、セーフティウォッチャーなどと連携・協力して、引き続き、地域の中であいさつの浸透に努める。	地区部会が、あいさつをテーマにした標語募集を小学校4校(小中台・園生・小中台南・柏台)に依頼し、「東西社協まつり」(10/29)で発表並びに表彰を行うとともに、啓発用ステッカーを掲示するなど、住民同士のあいさつの浸透に取り組んだ。また、セーフティウォッチャー(小中台小760人 小中台南小365人、)の協力を得る中、児童・生徒の登下校時のあいさつ運動に取り組んだ。	A	・いきいきサロンの拡充を図るとともに、町内自治会エリア内における住民同士の見守り活動の継続に取り組んだ。
	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、高齢者等に対して、閉じこもり予防のために、いきいきサロン実施か所を2か所増やすとともに、町内自治会や住民が日常生活の中で、無理なく行える住民同士の見守り活動実施地区の拡充に努める。	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、高齢者等に対して閉じこもり予防のために、いきいきサロン(10か所 81回 延べ910人)を実施するとともに、8町内自治会が声かけなどによる住民同士の見守り活動を継続して取り組んだ。また、住民同士の見守りや支え合い活動の拡充を図るために、民児協の協力を得て75歳以上の高齢者に対してニーズ把握に取り組んだ。	A	・住民が気軽に交流できる居場所の拡充や住民同士が支え合う地域づくりの充実を図っていく必要がある。
弥生地区部会エリア 【人口・世帯数】 673人、310世帯 【町内自治会数】 2町内自治会 【高齢化率】 18.3% 【地域の特徴】 稲毛区弥生町及び黒砂台3丁目の一部が対象地域。稲毛区の南部に位置し、JR西千葉駅、京成線みどり台駅から徒歩圏内の住宅地となっており、千葉大学に隣接していることも特徴の一つである。弥生町自治会、弥生県営住宅弥生会の2町内自治会で構成され、総世帯数は約310世帯、他の地区部会と比較すると、非常に小さな規模の地区である。	⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	地区部会が、地域内の絆を深めるために「お楽しみ会(ハーティーちゃんの日)」や「ハロウィン祭り」を企画実施するとともに、町内自治会などの広報により、多くの地域住民の参加促進を促し、地域交流・異世代交流を図る。	地区部会が、「ハロウィンパーティ」「ハーティーちゃんの日」などのイベントを企画実施するとともに、町内自治会の回覧や掲示板、口コミなどを通じて、幅広い世代の参加を促して交流の場づくりに取り組んだ。	A	・幅広い世代が交流できるイベントを新たに創出するとともに、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携協力し、健康づくりや介護予防の情報提供に継続して取り組んだ。
	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会が、あんしんケアセンターや町内自治会、民児協と連携して、「出前講座(年1回)」や「くるま座Q&A(年2回)」を開催し、高齢者向けに健康に関する相談や情報提供を行い、健康増進を図る。	地区部会が、あんしんケアセンターや行政と連携し、高齢者に対して、出前講座や「くるま座Q&A」を開催し、健康に関する相談や情報提供を行うとともに、いきいきサロン(1か所9回 延べ55人)を実施し、健康増進に取り組んだ。	A	・引き続き、関係機関等と連携協力し、既存の活動を継続して取り組んでいく必要がある。
	⑩ 地域でできる介護予防の普及	2	地区部会が、町内自治会や民児協、あんしんケアセンターと連携し、高齢者に対して、いきいきサロン(年9回)や体操教室(年2回)等を実施し、介護予防の普及を図る。	地区部会が、あんしんケアセンターと連携し、高齢者に対して、いきいきサロン(1か所 9回 延べ55人)や体操教室(2回 延べ12人)を実施し、介護予防の普及に取り組んだ。	A	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

主な成果	14地区部会エリアにおいて、重点取組項目数は合計59項目中、目標を上回って達成した取組みは8項目、概ね目標達成が25項目、一部目標達成が15項目、大きく目標を下回ったものが11項目であった。
第3期の総括・今後の課題	・活動拠点等の確保が厳しい。 ・地区部会と町内自治会との連携が厳しい。 ・活動資金の確保が厳しい。

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割) B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

◆取組みテーマ別達成状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	20	・「福祉のつどい」と銘打っての開催は、今年度で9回を数えるが、この他に毎年数回、福祉ボランティア講座を実施している。 ・昨年同様、公民館・社協若葉区事務所等でチラシを配布した。	S	2
			A	8
			B	8
			C	2
2 健康づくり	7	・「社協だより」を活用し、介護予防を主題に連載した。 ・地区部会事業等を利用し、「握力測定」を導入した。 ・各自治会の協力で「健康づくりイベント／勉強会」を随時実施した。(計6回) ・パラリンピックの正式種目「ポッチャ」の用具を2セット購入し、イベントに活用している。	S	2
			A	2
			B	1
			C	2
3 相談体制と情報提供の充実	4	・昨年同様に、「いきいきサロン」(午後1時~3時)において、「相談コーナー」を開設した。(午後2時~3時) ・「地区部会だより」を年3回発行した。記事は、写真を多用して見やすい紙面づくりを心がけて実施した。 ・毎月、「ふれあいいきいきサロン」において、あんしんケアセンターの職員による「お困りごと相談」を開催した。(午後2時~3時)	S	0
			A	2
			B	2
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	8	・「地域ケア会議」を2回実施した。地域のボランティア団体・組織が一堂に会し、地域包括ケアシステムについて学び、意見・情報交換ができた。 ・地域環境が全く違う中での活動内容だったが、とても有意義な時間であり、直接、話を聞くことで、良い参考となった。	S	0
			A	3
			B	2
			C	3
5 見守り体制の構築	3	・民生委員の協力で、80才以上の高齢者(独居を除く)の世帯に安心カードを配付した。 ・自治会への啓蒙活動が奏功し、都賀の台や西都賀自治会においてボランティア組織による活動が具現化した。	S	1
			A	1
			B	0
			C	1
6 防犯に対する取組み	4	・パトロール中に声をかけてくださる住民もあり、意識を高められていると感じた。新規会員に対する理解も深まった。 ・防犯活動(防犯パトロール)を全組織で実施している。	S	0
			A	2
			B	1
			C	1
7 防災に対する取組み	8	・小学校体育館にて救急救命講習会を実施。 ・連協の定例会で情報交換を行った。「防災・減災・自主防災組織」という演題で7月に連協主催の研修会を実施した。	S	0
			A	6
			B	0
			C	2
8 福祉教育・啓発	3	・地域の福祉関係者と住民が福祉について学び、交流を深めた。 ・社協ふれあいバザーに際して、中学校・学園の生徒が、当日ボランティアとして参加した。	S	2
			A	1
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	2	・福祉施設(地域)と自治会の協力で、買物支援事業を実施した。 ・福祉施設へのボランティア派遣・交流した。 ・ボランティア講座を開催(年1回)した。	S	1
			A	0
			B	1
			C	0
合計	59		S	8
			A	25
			B	15
			C	11

<参考>

◆若葉区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日		主な議題
平成29年度	第1回 平成29年6月23日(金)	・第4期若葉区支え合いのまち推進計画案について
		・第4期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の選定について(中間報告)
		・事例報告について
	第2回 平成29年9月27日(水)	・第4期若葉区支え合いのまち推進計画(案)について
		・第4期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の決定について
		・事例報告について
		・市民説明会について
	第3回 平成29年12月14日(木)	・生活支援サービス活用ガイドについて
		・幸町2丁目地区部会「カフェさいわい」について
		・都賀の台生活便利帳について
		・地域拠点を活用した「TSUGAのわ ども食堂」について
		・市民説明会について
第4回 平成30年3月15日(木)	・市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の審議結果について	
	・第3期若葉区支え合いのまち推進計画の重点取組項目の実施結果について	
	・平成29年度の活動報告について	
	・次期委員の改選について	
	・区支え合いのまち推進計画に係る推進状況の調査について	

◆若葉区内の地区部会エリア数 … 14

No.	地区部会名	活動対象区域
1	坂月地区部会	大草町、太田町、坂月町、小倉町の一部
2	貝塚地区部会	貝塚町、貝塚2丁目
3	桜木地区部会	桜木1~8丁目、桜木北1丁目、桜木北2丁目の一部、貝塚1丁目、小倉町の一部
4	小倉地区部会	小倉台、小倉町の一部、若松町の一部
5	白井地区部会	中野町、和泉町、野呂町、川井町、五十土町、大広町、高根町、佐和町、北谷津町、中田町の一部、多部田町の一部
6	更科地区部会	古泉町、富田町、更科町、御殿町、小間子町、上泉町、下泉町、大井戸町、下田町の一部、谷当町、中田町の一部
7	御成台、千城台西・北地区部会	御成台、千城台西、千城台北、下田町の一部
8	千城台東南・金親地区部会	千城台東、千城台南、金親町
9	26地区部会	大宮台、北大宮台、大宮町の一部、多部田町の一部、緑区平山町の一部
10	若松地区部会	若松町の一部、若松台、桜木北2丁目の一部、桜木北3丁目、都賀5丁目、西都賀5丁目の一部
11	加曾利地区部会	加曾利町
12	都賀地区部会	都賀1~4丁目、西都賀1~4丁目、西都賀5丁目の一部、都賀の台
13	結・みつわ台地区部会	愛生町、殿台町、原町の一部、東寺山町、みつわ台、源町
14	千城小地区部会	大宮町の一部

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
坂月地区部会エリア						
【人口・世帯数】 4,037人、1,850世帯	① 地域ぐるみで声かけ・あいさつ運動の実施	1	・ラジオ体操の実施会場を3か所に増やす。 ・あいさつ運動の啓発活動を行う。	・新たにサークルを作るに当たって、時間・場所の確保が課題である。 ・地域の方の協力で、ラジオ体操の実施場所を1か所増やすことができたのは、一歩進んだと思う。	B	
【町内自治会数】 5町内自治会	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2	坂月地区部会主催で年間各1回開催している「歩こう会」と「グラウンド大会」を「歩こう会」3回、「グラウンドゴルフ大会」2回に増やす。その中で、「歩こう会」の目的を多様化する、「グラウンドゴルフ大会」の参加者の組み合わせを変える等の新鮮味を加える。	・当初の目標より1回増やすことができ、参加者も少しずつ増えている。 また、大草町からの参加者が少しずつ増えてきたことは評価したい。	B	
【高齢化率】 22.7%	⑬ 防犯活動の実施	6	セーフティウォッチャーを10人及び「こども110番の家」を20軒増やす。	・「こども110番の家」については実質的な進捗はない。 ・学校と更に連携を強化したい。	C	
【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校(市内で最少人数)に通学する生徒は少ない。	⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	災害に備えて、坂月地区の避難所・危険箇所等の地図の作成・配布をする。 平成29年度は編集・印刷・配布。	・本年度は、地図の内容の不備や新たな住宅地の開発等について精査した。 ・地図上に、余白スペースがあるので気がついた事を記入できる。字を大きく、見やすくすることに配慮した。	A	
貝塚地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,113人、3,163世帯	① 地域ぐるみで声かけ・あいさつ運動の実施	1	小学生見守り人員増や場所を増やす取り組みを行う。	・従来からの小学生への見守りは継続しているが、拡充は達成できていない。 ・高齢者への声かけは、ふれあい・いきいきサロンなどを通じて健康等に関する声かけを行っている。	B	・福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施については、ある程度目標を達成することができた。 ・ふれあいサロンに参加する方を増やすための呼びかけの方策、小学生が参加できるお楽しみ会、散歩や研修などを充実することが課題である。
【町内自治会数】 9町内自治会	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	新規の開催場所を増やすための検討を行う。	・芋煮会・健康セミナーを充実させる為、ジャズ演奏会を加えた。 ・高齢者のふれあいを充実する為に、敬老会を実施する自治会を増やした。 ・小学生と高齢者が一緒に楽しめるよう、「流しソーメン会」を行った。	S	
【高齢化率】 19.6%	⑬ 防犯活動の実施	6	回数や地域を広げる努力をする。	・防犯パトロールを継続。参加人数は、若干増加した。 ・パトロール中に声をかけてくださる住民もあり、意識を高められていると感じた。新規会員に対する理解が深まった。	B	
【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。	⑭ 防災・減災活動の実施	7	少しずつ設備の充実を図り災害時に備える。	・ほとんどの町内に自主防災組織ができたが、訓練を実施できていないところもある。	A	
桜木地区部会エリア						
【人口・世帯数】 15,212人、7,037世帯	② 子育てしやすい環境づくり	1	地域の子育て中の親子とボランティアが自由に語らいあう場となる「ふれあい・子育てサロン」への参加組数を、広報紙やチラシ、インターネット等を活用して増やしていく。 平成29年度は参加者を1回あたり平均15組程度に増やしたい。	・「ふれあい・子育てサロン」の開催日時については、町内自治会回覧にて広報を行っている。 ・研修会等に進んで参加している。 ・3年間通して、各町内自治会との関係を深められたことが大きな成果である。	B	・子育てしやすい環境づくりでは、3年間通して、各町内自治会との関係を深められたことが大きな成果と思っている。 ・気軽に過ごせる居場所づくりについては、回数アップを図りたい。
【町内自治会数】 20町内自治会	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	現在、桜木公民館で年1回ふれあい食事会を開催している。 今後、近隣にある桜木小学校等と連携し、食事会等の中で小学生と高齢者との交流事業を検討していきたい。 29年度は、交流事業拡大。	・以前は、桜木公民館にて開催していたが、狭いため、現在は会場を貝塚中学校校体育館に変更した。参加者は増加した(70名位)。 ・年々、高齢者が増加、参加者増加等で広い体育館に変更する。 ・地区部会主催にて年1回65歳以上の一人暮らしの方を招待している。平成29年度は76名(役員を含むと110名程)の会となった。	B	
【高齢化率】 24.6%	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	地域の高齢者とボランティアによる語らいあう場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1~2回、7か所で実施している。 3年計画では、サロンの担い手を増やすとともに、地域の町内自治会等と連携し、12か所に増やす。	・平成27年度から平成29年度の3年間で、7か所から8か所に増加した。会場は、各町内自治会又は個人の家等を使い、開催している。	B	
【地域の特徴】 幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。 住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えてきている。	⑭ 防災・減災活動の実施	7	当該エリア内全町内自治会へ呼びかけ、消防署等に協力を依頼し防災訓練を実施する。 29年度は、防災訓練拡充実施。	・話がなかなか進まなかったという印象である。 ・第43地区町内自治会連絡協議会は桜木町の一部と都賀方面の第33地区連協で成り立っており、横のつながりが難しかった。	C	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
- A:概ね目標を達成した。(8~10割)
- B:一部目標を達成した。(5~7割)
- C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題					
小倉地区部会エリア											
【人口・世帯数】 13,172人、6,054世帯	② 子育てしやすい環境づくり	1	地域の実情を把握しながら、現在若松公民館で開催している「子育てサロンぴーなっつ」の他に、地区部会エリアの中心地である小倉中央自治会で「子育てサロン」を開催する。 ・子育て相談会、絵本の読み聞かせや手遊び、友だちづくりのおしゃべりタイム、孫を預かる祖父母の方も歓迎。 ・周知の方法として回覧板、幼稚園送迎の保護者への案内等。	・子育てサロンの開催について、12町内自治会への回覧板、エリア内のポスター掲示にて周知したり、各町内清掃時に若い方達へ声掛けを行った。 ・「子育てサロン」(於:小倉中央自治会館)は、保護者16名、未就園児21名参加であった。	A						
【町内自治会数】 12町内自治会											
【高齢化率】 28.2%											
【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉中央自治会(小倉台1丁目~小倉台7丁目)がエリアの中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅を中心に、南北には戸建て主に住宅からなる住宅街と一部集合住宅(市営・県営)、幹線道路沿いには商店街が広がる。											
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり							1	・「ふれあい・いきいきサロン」の中で、「お困りごと相談」を実施する。 ・「ふれあい・いきいきサロン」の参加人数の増加に力を入れる。 ・各委員が二人チームを組み、参加を呼び掛ける。	・「ふれあい・いきいきサロン」は例年どおり、毎月1回(奇数月第4水曜日・偶数月第4木曜日)開催し、「お困りごと相談」を実施できている。終了後にスタッフの反省会を持ち、その後「運営委員会」を開催し、次回の運営などについて話し合った。内容を充実させるよう力を入れている。 ・参加人数は、各回ばらつきはあるが、増加にむけて取り組んでいる。各委員がチームで参加について呼びかけている。	S	
⑥ 障がいのある方の社会参加と交流機会の創出							1	・障害者施設との連携で障害のある方の状況を把握し、交流を積極的に進める。 ・障害のある方との交流会の開催を拡充する。 ①吹奏楽コンサート、②いきいき散歩クラブ、③サポート体験	①吹奏楽コンサート(淑徳大学)…1回実施 ②いきいき散歩クラブ…2回実施 ③サポート体験…介護講座(車椅子での介助)1回実施	A	・気軽に過ごせる居場所づくりでは、常時参加されている方は友達を作り楽しい時間を過ごしているが、初参加の方がなかなか増えない。特に男性の参加が少ない。エリアの中で1ヶ所のみ開催は足腰の弱い高齢者にとってなかなか出来ないと考える。空き家が増えているので利用できるような取組みがぜひ欲しい。
⑪ 見守り活動の仕組みづくり							5	・見守り活動の関心を高めるため、地域住民に対して講演会を開催し、必要性を啓発する。 ・「安心カード」を作成し、配布する。 平成29年度:75歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に実施	・「安心カード」を、民生委員の協力により75歳以上の世帯へ配布した。また、若葉消防署へ配布した旨を報告した。	S	
⑰ 相談窓口の設置や出張相談の実施	3	「ふれあい・いきいきサロン」の場でお困りごと相談を実施する。	・毎月の「ふれあい・いきいきサロン」開催時に、午後2時~3時まで「あんしんケアセンター千城台」の職員による「お困りごと相談」を開催した。参加者だけではなく、民生委員からの相談もあった。	A							
⑳ 地域での福祉教室等の開催と活動支援	8	健康のため、また男性が地域の人々とふれあう機会を増やすため「男性料理教室」を開催する。	・若松公民館にて年2回(7月6日・12月7日)開催した。 ・各町内自治会長へ協力依頼を通知し、回覧版にて全戸へ周知した。 ・講師(ヘルスマイト)に献立、食材準備をお願いし、各回ネットワーク委員と共に試作・試食会後、当日を迎えた。	A							

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題					
白井地区部会エリア											
【人口・世帯数】 7,023人、3,413世帯	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	地域の高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1回以上実施している地域を拡げていきます。 現在、実施している地域は、5か所ですが、8か所に拡げていきます。	・平成28年度に、実施場所を5ヶ所を8か所に増やすことができた。平成29年度も、引き続き継続できている。	A						
【町内自治会数】 18町内自治会											
【高齢化率】 42.7%											
【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域(西部・東部・中部)に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。											
⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり							2	「ふれあい・散歩クラブ」は、現在2地区で実施されておりますが、これを4地区に拡大して実施します。また、住民の健康維持と交流の場となるラジオ体操も、並行して一緒に取り組んで参ります。 29年度:4地区に拡大	・本郷地区で、実施を中止したものの、現在は4地区で実施しており、目標は達成できている。	A	
⑧ 活動の中核となれる人材の発掘							9	地域住民や諸団体役員の皆様をお招きし、年一回以上ボランティア講座を実施。活動の中核となるボランティアコーディネーターの育成をはかり、登録ボランティア、福祉活動推進員を積極的に募集する。 出来るだけ多くの方に講座に参加していただき、福祉活動の意義について理解してもらい、活動に協力できる人材を発掘する。 福祉活動推進員を現在の6名を10名に増員する。	・福祉施設(地域)と自治会による買物支援事業などへの取組みを手伝った。 ・福祉施設へボランティア派遣・交流を行った。 ・ボランティア講座を開催(年1回)した。 ・福祉活動推進員は7名に増員した。7名で充分活動内容を消化することができたため、更なる増員は行わなかった。	A	
⑪ 見守り活動の仕組みづくり							5	高齢者の孤立死・孤独死、社会的孤立を未然に防ぐため、近隣住民同士が日常生活の中で無理なく行う見守り活動、実施自治会等の数を増やす。 毎年度1自治会ずつ増やし、平成29年度には5自治会に増やす。	・連協の定例会において情報交換を行った。 ・「高齢者施策について」という演題で11月に市の担当者による研修を実施した。	A	
⑬ 防犯活動の実施							6	現在、野呂、新宮田、高根グリーンタウン、多部田の4自治会で定期的にパトロール活動を実施しているが、自治会等で防犯パトロール隊等を結成し、定期的にパトロール活動を実施する自治会等を平成29年度までに7自治会等に拡大する。	・野呂、新宮田、高根グリーンタウン、多部田、野呂団地、高根団地の6自治会で実施を継続している。 ・連協の定例会で情報交換を行った。	A	・広報誌を年4回、全戸配布をに取組んでいたが、他地区の状況を参考とし、広報担当の負担や経費を軽減するため、年3回の発行となった。今後は、より良い紙面づくりに取り組みたい。
⑭ 防災・減災活動の実施							7	現在、白井地区部会エリアでは、18自治会のうち自主防災組織が組織化されているのは、8自治会と半数未満である。 各自治会が自主防災組織を立ち上げることを目標にして、平成29年度までに11自治会に増やす。	・鎌田自治会が追加となり、概ね目標を達成した。 ・連協の定例会で情報交換を行った。 「防災・減災・自主防災組織」という演題で7月に連協主催の研修会を実施した。	A	
⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	現在、避難所運営委員会の設立に向けた会議等を開催しているが、設立までには至っていない。 近年の大規模災害等の発生を踏まえ、地域で災害発生時にスムーズに避難所を開設・運営できるよう、平成29年度までに各指定避難所3か所に避難所運営委員会を設置する。	・17連協(白井中学校区)地区の全ての自治会を網羅した委員会が設置された。	A							
⑯ 地域福祉に関する情報の発信	3	現在、「白井地区部会だより」を年2回作成し、白井町民に配布しております。その他に、今後「地域情報」をタイムリーに作成し、発行して参ります。 ・29年度は4回。	・「白井地区部会だより」を年3回発行した。記事は、写真を多用し、見やすい紙面づくりに配慮した。地域の方に身近な記事を多く届けることができた。	A							
⑰ ⑱福祉のこころを育む活動の実施	3	・高齢者と小・中学生との異世代交流の実施。 ・学校やPTAと連携し、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会をつくる。 ・「ふれあい・子育てサロン」を実施する。	・「白井小学生とのふれあい活動」 白井小学2年生と地域の高齢者との異世代交流が出来た。(参加者71名のうち小学生30名) ・「しらい・子育てサロン」 4回実施できたのは、民生委員・児童委員、児童母子福祉委員の協力体制や、白井地区部会だよりの地域情報、千葉市社会福祉協議会関係者が貢献したことによる。(参加者87名うち親子49名)	A							

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
更科地区部会エリア						
【人口・世帯数】	① 地域ぐるみで声かけ・あいさつ運動の実施	1	平成29年度:完全実施 ・地区のあらゆる催しでのCD放送、②月1回小学児童に対する朝の声かけあいさつ運動の実施	・敬老会や凧揚げ大会実施日にCDを流した。月1回、小学校児童に対する声かけはできていない。	C	
2,683人、1,237世帯						
【町内自治会数】						
13町内自治会						
【高齢化率】	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	現在、下田町自治会館及びその周辺で親子・友達との交流の場として毎年12月に親子凧揚げ大会を実施している。 中学生・高校生・大学生等の若い世代の参加・協力を促す。 平成29年度までには、この世代の参加者を増員する。	・平成29年12月3日に下田町で凧揚げ大会を実施。参加者は約160名で、用意した凧はすべて使用した。	C	・地域ぐるみで声かけ・挨拶運動の実施では、少子高齢化で小学校児童は自動車により送迎しており、道路で会うことがなく、あいさつは小学校の行事で学校を訪問した時ぐらいたっている。 ・当地区部会は、自治会、民生委員、福祉活動推進員青少年相談員等の複合団体であることから、まとまって活動するのは難しいのが課題である。
38.9%						
【地域の特徴】	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	現在、更科公民館で地域の高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1回実施している。 平成29年度までには、サロンの担い手を増やすとともに、地域の自治会館等を活用し、5か所に増やす。	・「ふれあい・いきいきサロン」を、更科公民館で毎月第4水曜日に継続実施している。	B	
対象エリアは非常に広いが、住基人口(2,683人)、世帯数(1,237世帯)は区内で一番少ない。 多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率は高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。						
【地域の特徴】						
⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	・全体避難訓練マニュアル作成、訓練実施したい。	・地域では消防団が残っているところがあり、防火週間には消防車を使用し、防火の意識を高めている。	C		
御成台・千城台西北地区部会エリア						
【人口・世帯数】	② 子育てしやすい環境づくり	1	29年度:前年度の推移を見ながら、本格導入を図る方向を探る	・「赤ちゃんと季節のイベント」をテーマに写真撮影をしながら親同士が交流する場である。本年度は3か月ごとに1回、予定通り計4回実施した。 ・毎回十数組の参加があり、リピーターも多い。お互いに顔見知りが増えて和やかな雰囲気で開催できている。	A	・近隣自治会との交流も深めたいという目標があったが、自治会役員の高齢化の影響で本来の役割(地域住民同士の助け合い)を果たせない状況の中では、支え合い活動等で地区部会が連携してできることが限られることを痛感している。 ・地区部会事業は自治会との連携なくして進展せずとの意識は常に持っている。自治会それぞれの実情も汲みながら地道に進めていきたい。
10,272人、4,775世帯						
【町内自治会数】	⑦ 地域のできる介護予防・健康づくり	2	29年度:各自治会が健康促進のため事業化へ向けたサポート	・「いきいきサロン」など既存の活動とは別に、福祉推進員が実施している。 ・健康長寿の啓もう活動…年6回発行の「社協だより」を活用し健康長寿を主題に連載している。 ・地区部会事業を利用し、健康講義、体操実技、「握力測定」を実施した(計9回)。 ・「体力アップで健康長寿」講演会を3回開催した。 ・ポッチャ競技を計3回開催した。(近隣の公民館や小学校にも広がった。)	S	
18町内自治会						
【高齢化率】						
34.0%	⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	29年度:若い力(学生等)を借りて、事業のサポート体制を具現化へ。	・千城台東南・金親地区部会と共催で11月「医師による講演会」、12月と3月「体力アップで健康長寿講演会」を開催した。同地区部会から多くのご参加をいただき、連携を深めた。	B	
【地域の特徴】						
モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。						

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題		
千城台東南・金親地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	現在3か所で各会場月1回サロンを開催している。サロンの参加者数を増やすため、対象者の年齢及び対象条件を拡大し、地域の民生委員・町内自治会の方々に協力を要請する。キャパシティの問題もあるが、平成29年度までに各会場15~20人程度まで参加者を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度同様、民生委員・児童委員による高齢者実態調査時に、「ふれあい・いきいきサロン」お誘いのチラシの手渡しを実施した。 民生委員、ボランティアが知人・ご近所に声掛けした。 サロンに参加されている方が知人を誘ってくれた。 	B	・気軽に過ごせる居場所づくりでは、第3期計画の各会場15~20人程度まで参加者を増やす。これについてはサロン憩・サロン東町については達成している。サロン南は南小学校という立地条件が悪いのか増え方が少ない。それでも以前より3~4名登録は増えている。 ・課題としては、参加者人数が固定化する。(加入者があっても高齢化により施設入所する方が出たりで増えない。)宣伝方法を考え直す必要があると考える。		
<ul style="list-style-type: none"> 【人口・世帯数】 10,969人、5,243世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。 			⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	平成28年度以降隣接する御成台、千城台西・北地区部会と合同で年1回開催し、別に当地区エリアにおいても年1回開催する。		<ul style="list-style-type: none"> 御成台、千城台西・北地区部会との合同で、医師による講演会「和漢診療の世界を紹介します」を実施した。(11月) 【千城台東南・金親地区内の小学生と交流を計画・実施】 千城台旭小学校1年生と「むかしあそびの会」(12月) 千城台南小学校全学年の児童と「地域の方に教わる会」(12月) 千城台東小学校「むかしあそびをしよう」(12月) 「健康長寿手足の力をきたえよう」を実施した。(3月) 	A
			⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	大規模発生時の避難所運営をスムーズに行うため、平常時から協力体制を整える。すでに当該エリアの避難所運営委員会はすべて設置されているので、全避難所運営委員会合同の訓練を行う。 29年度 当該エリアの全避難所運営委員会合同で訓練を行う。		<ul style="list-style-type: none"> 避難所開設訓練の実施、協力ができた。(参加者 153名) 	A
26地区部会エリア	③ 公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	1	ラジオ体操の実施場所を増やす。 大宮台自治会:4、北大宮台自治会:2、いずみ台ローズタウン自治会:2、他町内自治会単位:5 合計:13 ・グラウンドゴルフ大会への参加促進 ・ふれあい食事会への参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操は全組織で実施できている。 グラウンドゴルフは目標(年2回)を達成した。 	A	・ラジオ体操の目標を概ね達成した。今後も継続できるよう努力していきたい。 ・グラウンドゴルフへの参加を呼び掛けたところ、1回当たり100名程度の参加者があったことで目標を達成した。今後回数を増やし、地域間交流を図る。		
<ul style="list-style-type: none"> 【人口・世帯数】 7,788人、3,522世帯 【町内自治会数】 8町内自治会 【高齢化率】 44.6% 【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台団地は昭和36年~42年にかけ、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地(当時戸建住宅2,040戸)である。隣接はしないもののいずみ台ローズタウンを内包する。 			⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2	以下のすべての事業、行事を継続する。 早起きラジオ体操/元気で歩こう会/安心カード/安否確認電話連絡/高齢者見守りネットワーク/一人で避難できない人の介助/公園清掃除草/花壇手入れ/ゴミ出し支援/買い物支援		<ul style="list-style-type: none"> 取り組み項目は概ね実施できた。 	A
			⑬ 防犯活動の実施	6	防犯・防災パトロールの実施自治会数を増やす。		<ul style="list-style-type: none"> 防犯活動(防犯パトロール)を全組織で実施している。 	A

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
若松地区部会エリア						
【人口・世帯数】 19,749人、8,859世帯	② 子育てしやすい環境づくり	1	平成29年度は定期的に保健師に相談できる機会を作る。	・若松町北部自治会集会所、若松町南部自治会の2カ所で行った。	B	
【町内自治会数】 13町内自治会						
【高齢化率】 26.9%						
【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとても広く、住基人口(19,749人)、高齢者数(5,314人)、世帯数(8,859世帯)は区内エリアで二番目に多い。 若松台2・3丁目の高齢化率(44.5%)が非常に高い。						
	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	平成29年度は各自治会でいきいきサロンの実施回数を増やす努力をする。	・若松町北部自治会集会所、若松町南部自治会の2カ所で行った。	A	・子育てしやすい環境づくりでは2カ所での参加者の数にむらがあった。 ・若松高校で授業として行っている子育てサロンは、生徒、親子、ボランティアにより充実した活動となっている。
	⑦ 地域のできる介護予防・健康づくり	2	「気軽に過ごせる居場所づくり」で実施するいきいきサロン等の中で、千葉市政出前講座またはサポートセンターの協力により、講座を開催する。	今年度は実施できなかった。	C	
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	若松地区部会の会員、構成団体等との話し合いの場を持つ。平成28年度以降は、千葉市あんしんケアセンターの協力を得て、若松地区部会で色々なことを学び、協力できる体制づくりを行う。	・今のところ自治会単位で行っており、充実している。	C	
加曽利地区部会エリア						
【人口・世帯数】 6,641人、3,160世帯	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	9	29年度:スキル向上--活動に並行して専門的な教育、講習会への参加を奨励する。	「加曽利助け合いの会」において、ことぶき大学校生等に、ボランティア活動の研修会を実施した。一般の方は市政だよりを見て参加した。	S	
【町内自治会数】 7町内自治会						
【高齢化率】 30.3%						
【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていなく、1町のみ(加曽利町)のエリアである。 古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。						
	⑫ 活動団体同志の連携・交流	4	29年度:仕組みに則りメインテーマの設定(認知症対応、出てこない人対策等)を行い、一部で実行してみる。	「地域ケア会議」を実施した。 <内容> ・社協として介護保険の制度外の地域のケア(地域支え合い型訪問・通所支援)についてどのように進めたら良いか。 ・民生委員と地域住民が関わっている困難事例 ・今、地域で多く起こりつつある「ゴミ屋敷」問題の事例について、今後の対応を議論した。	A	・活動の中核となれる人材の発掘では、この種の横断的な連携交流の機会は今までなかったようである。 総論的な話も時には必要であるが、これに加えて、身近な福祉問題を議論する場を設けること必要である。 相互に意見交流が出来、それぞれの団体にとって効果が出てくることを期待したい。
	⑭ 防災・減災活動の実施	7	29年度:当地区部会のエリアの各自治会すべてのエリアの見守りマップの作成を行う。	今年度は民生委員と共同で“高齢者の見守り活動”の同意していただいた家を中心にマップの作成をおこなった。	A	
	⑯ 福祉のこころを育む活動の実施	8	福祉体験学習プログラムを学校と種々の地域の団体が共同して開発し、展開することを考えたい。 ・三年目は、軌道に乗る活動なのかどうかを確認し、その展開を決めていきたい。	社協ふれあいバザーに際して、加曽利中学校・瀧澤学園の生徒にお声がけしたところ当日ボランティアとして参加していただいた。	S	

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
都賀地区部会エリア						
【人口・世帯数】 13731人、7,059世帯	⑩ 助けあい活動の仕組みづくり	4	全住民参加型のご近所福祉活動による「助け合い見守り合う地域生活」を地区部会、自治会、民生委員などが連携・協力して推進する。広報活動、活動説明会を通して推進する。この活動推進のための「活動対策委員会」(仮称)を別に設けて具現化の研究と浸透に取り組む。広報紙は年に2回発行する。この活動により住民と自治会、民生委員、地区部会との繋がりを深めていく一助とする。(自治会加入の促進化に繋げていく。)	平成30年3月に「ご近所だより・第2号」を発行して以来、活動の展開について構想づくりに注力したが結果を出せなかった。組織として掲げた課題であったが、担当責任者の繁忙もその要因となった。一方、自治会への啓蒙活動が奏功し、都賀の台や西都賀自治会においてボランティア組織による活動が具現化した。	C	
【町内自治会数】 10町内自治会						
【高齢化率】 28.2%						
【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.4%と、限界集落(50%・2人に1人が高齢者のまち)に近い状況まで高齢化が進んでいる。						
⑪ 見守り活動の仕組みづくり	5	全住民参加型のご近所福祉活動による「助け合い見守り合う地域生活」を地区部会、自治会、民生委員などが連携・協力して推進する。広報活動、活動説明会を通して推進する。この活動推進のための「活動対策委員会」(仮称)を別に設けて具現化の研究と浸透に取り組む。広報紙は年に2回発行する。この活動により住民と自治会、民生委員、地区部会との繋がりを深めていく一助とする。(自治会加入の促進化に繋げていく。)	平成30年3月に「ご近所だより・第2号」を発行して以来、活動の展開について構想づくりに注力したが結果を出せなかった。組織として掲げた課題であったが、担当責任者の繁忙もその要因となった。一方、自治会への啓蒙活動が奏功し、都賀の台や西都賀自治会においてボランティア組織による活動が具現化した。	C	・「助けあい活動」「見守り活動」は、地区部会レベルでの組織的な仕組みづくりはハードルが高くご近所の相互扶助による共助活動を推進にポイントをおいている。また今後在宅医療・介護を中心とする総合事業へと政策がシフトされていく中で、ご近所活動を核とした町内自治会を巻き込んだ連携対応が求められている。この理念の浸透が大切であり、広報紙による啓蒙活動は前向きに継続していく必要があると認識している。	
⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	・「地域ケア会議」を開催し、あんしんケアセンター、自治会、地区部会、民生委員、ボランティア組織など、それぞれの役割と連携について協議する。 ・「ご近所福祉」活動と「地域ケア」活動の相関と効果的運用や進め方について協議し、地域課題を共有する。 ・地域内で活動するボランティア組織と地区部会(委員会・対策委員会)との連携について意見交換と協議を行い、相互の活動に役立てる。	「地域ケア会議」を2回実施した。地域のボランティア団体・組織が一堂に会し、意見・情報交換ができた。地域包括ケアシステムについて学び、「在宅医療と介護」への政策シフトによる地域の支え合い活動について意見交換ができた。2回とも45名前後が参加し、有意義であった。	A		
⑳ 地域での福祉教室等の開催と活動支援	8	地域福祉の推進にかかわる講座・講演などを年間に3回前後開催し、身近な福祉課題・問題への理解を深め合うことで、部会レベルまた自治会、住民レベルで、活動の活性化を期する。	7月に「脳卒中の予防」講演会、8月に「地域ケア会議」、9月「健康講演会」、10月「研修旅行」、10月「認知症予防」講演会、1月「地域ケア会議」を開催し、地域の福祉関係者と住民が参加して福祉について学び交流を深めた。	S		
結・みつわ台地区部会エリア						
【人口・世帯数】 24,296人、10,795世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	これまで、公民館で「福祉のつどい」を1回/年、開催しているが、出席者が「参加し、交流する」ことにより、最低、何か一つ習得し(みにつけて)帰れるよう、内容の充実を図る。 「回数」については、地区部会の体制が整うまで、現状維持とする。	「福祉のつどい」と銘打っての開催は、今年度で9回を数えるが、この他毎年数回にわたり、福祉ボランティア講座を実施してきている。今年度は以下のとおり併せて4回開催した。 ・つどい 2/11(日)第9回福祉のつどい『人工呼吸とAEDの体験』 ・第1回 5/26(金)福祉ボランティア講座『コグニサイズ&ラダー運動』 ・第2回 9/22(金)福祉ボランティア講座『おなか元気教室』 ・第3回 11/24(金)福祉ボランティア講座『認知症予防と口腔ケア』	A	
【町内自治会数】 35町内自治会						
【高齢化率】 24.8%						
【地域の特徴】 高齢化率が10%台の町丁(殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部)もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。35の町内自治会数は区内最多(加えて5の管理組合)である。						
⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2	・地区部会が、町内自治会やスポーツ振興会と協力して、「ふれあい・散歩パトクラブ」を実施する。 ・これまで実施してきた「点検パトロール」を、2回/月のペースを維持しつつ、地域住民参加型のパトへと脱皮すべく、協力団体等の拡大を目指す。	平成28年度10月以降、本活動は休止した。	C	・福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施では、地区部会発足以来の取組みテーマではあるが、課題を満足するにはいまだ程遠い現状にある。しかし開催各回とも多くの参加者があり好評を得ており、今後に向けての課題は抱えつつも現体制下では及第としたい。 ・「福祉のつどい」としての課題は、単なる講座に終わるのではなく、募集する地域住民が「たのしく」「参加型で遊び感覚があり」且つ「みんながつどって」「福祉を感じ」「明日への活力を育むもの」にしていくことであると考えている。	
⑫ ⑫活動団体同士の連携・交流	4	・地区部会と千葉市あんしんケアセンターみつわ台が連携し、定期的に地域の関係団体等が解決に向けて話し合う場である「地域ケア会議」を設置する。 ・地域で助け合い活動や見守り活動を実施する団体同士の情報交換や意見交換が容易にできる「場」をつくる。	エリア内の自治会、町内会、自治会組織のない管理組合等、併せて40組織を対象に、ほぼ開催が一巡したことを踏まえ、今年度は「開催エネルギー」対「開催効果」を重視。「見守り・支え合いのまち」づくりに関心のある自治会等を対象に、「日曜日開催」とした。実施は1回。	C		
⑰ 相談窓口の設置や出張相談の実施	3	・地域住民が、気軽に且つ安心して利用できる「介護等についてのよろず相談会」を実施する体制をつくると同時に、あらゆる場を通じて、地域への「啓蒙」活動を行う。 ・このため、活動主体の各団体が一致して協力できるよう、地区部会から継続して働きかけていく。「施策の方向性」についての意識を醸成する。(実績件数で管理)	今年度は、2か所のいきいきサロンにおいて、それぞれ1回ずつ計2回、相談会を実施した。	B		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
千城小地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	気軽に過ごせる居場所として、高齢者いきいき・サロンの開催を重点として活動する。 平成29年度は各自治会の平均実施回数年6回をめざし、定着を期す。	ふれあい・いきいきサロン開催のお願いをしたが、27年度から29年度にかけて、いきいきサロン開催の件数が減少している。	C	・防災・減災活動の実施では、27年度は他地区の社協地区部会がどのような活動をしているか、講師としてお招きして千城小地区部会に沿ったやり方を模索した。28年度・29年度は、地区部会で合同防犯講演・勉強会などを開催できた。
【人口・世帯数】 2,788人、1,356世帯						
【町内自治会数】 10町内自治会						
【高齢化率】 43.8%	⑬ 防犯活動の実施	6	29年度 試行結果から防犯パトロールの方法・方面やその他の活動について改善を加え、防犯活動の定着を期す。	防犯パトロールは朝・夕の2回実施している自治会もあった。	A	
【地域の特徴】 エリア内には1町(大宮町)しか含まれていない、小学校は設置されているが、児童数は区内で最も少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。	⑭ 防災・減災活動の実施	7	29年度 防災訓練、防災講演会の事前、事後の広報活動を充実させ、各自治会への意識の浸透と高揚を図る。	千葉東警察署による、自治会合同防犯講習会・地域に沿った防犯活動勉強会を実施した。	A	

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

主な成果	<ul style="list-style-type: none"> 各地区で地区部会が中心となって、見守り活動や支え合い活動について協議する機会が増加した。 地区部会が自治会等と連携して、各サロン等を開催し、地域住民同士の交流の機会の提供に努めた。
第3期の総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 見守りや支え合い活動の展開にやや遅れがみられる。これらを展開していくためには、町内自治会の協力が必要になってくるため、その活動の意義や方法を理解してもらえよう、取組みを継続していく必要がある。

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

◆取組みテーマ別達成状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	2	<ul style="list-style-type: none"> おゆみ野地区部会が、あんしんケアセンターと連携し、散歩クラブを4回(113名)実施した。(会場内ではあんしんケアセンター職員による相談も実施できた。) 椎名地区部会が、椎名小学校と連携し、ふれあい食事会や、障がい者とのふれあいを通じた福祉体験講座、など参加を呼びかけた。 	S	0
			A	2
			B	0
			C	0
2 健康づくり	1	<ul style="list-style-type: none"> おゆみ野地区部会が、保健師や看護師の協力を得て、散歩を通じての交流「ふれあい散歩」を実施した。(実施においては、問診票や血圧測定、水分補充等、体調管理に留意して、行うことができた。) 	S	0
			A	1
			B	0
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	1	<ul style="list-style-type: none"> おゆみ野地区部会が、「ロコミ」や地域内のミニコミ誌等を活用し、PRに努めた。 	S	0
			A	1
			B	0
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	3	<ul style="list-style-type: none"> 椎名地区では、古市場団地お元気確認委員会活動を充実させ、協力者の講習会の開催や、若い人の参加と話し合い活動を促進した。 誉田地区では、鎌取町内会・辺田町内会・平山第1自治会・誉田2丁目町内会にて見守り活動を実施した。また、コスモ誉田プレイズヒル自治会・誉田1丁目町内会・平山町内会の見守り活動が新たに立ち上がった。 土気地区では、既存の各種活動に加え、支え合い活動が求められていることを機会ある度に訴え、新たな地区で組織化する動きが出てきている。 	S	1
			A	0
			B	0
			C	2
5 見守り体制の構築	3	<ul style="list-style-type: none"> 椎名、誉田、土気地区部会で町内自治会への働きかけを行い、誉田地区部会では見守り活動を推進していくための委員会が中心となり、啓発活動を行った。 	S	1
			A	0
			B	0
			C	2
6 防犯に対する取組み	-		S	0
			A	0
			B	0
			C	0
7 防災に対する取組み	-		S	0
			A	0
			B	0
			C	0
8 福祉教育・啓発	1	<ul style="list-style-type: none"> 椎名地区で椎名小学校と連携し、①食育支援事業、②ものづくり教室支援、③地域の伝承文化の継承、④福祉体験講座、⑤漢字の学習支援、⑥高齢者施設と学校との交流を実施した。 	S	0
			A	1
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	-		S	0
			A	0
			B	0
			C	0
合計	11		S	2
			A	5
			B	0
			C	4

<参考>

◆緑区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日		主な議題
平成29年度	第1回 平成29年6月24日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 委員長・副委員長の選任について 広報部会委員の選任について 第4期緑区支え合いのまち推進計画の策定について
	第2回 平成29年9月9日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 第4期緑区支え合いのまち推進計画について 広報誌「みどりのきずな第32号」の承認について 市民説明会のお知らせ等について【地域福祉課】
	第3回 平成29年12月9日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 第3期緑区支え合いのまち推進計画の平成29年度進捗状況について 広報誌「みどりのきずな第33号」の承認について 支え合いのまち千葉推進計画の原案について【地域福祉課】
	第4回 平成29年3月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 第3期緑区支え合いのまち推進計画の平成29年度活動報告について 広報誌「みどりのきずな第34号」の承認について 支え合いのまち千葉推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)について【地域福祉課】 推進協議委員の任期の変更について

◆緑区内の地区部会エリア数 … 4

No.	地区部会名	活動対象区域
1	誉田地区部会	誉田町、鎌取町、辺田町、平山町の一部、大膳野町、高田町、平川町、おゆみ野6丁目の一部、東山科町
2	椎名地区部会	大金沢町、椎名崎町、小金沢町、茂呂町、中西町、古市場町、落井町、富岡町、刈田子町
3	土気地区部会	土気町、小食土町、小山町、大椎町、板倉町、大木戸町、下大和田町、上大和田町、高津戸町、大高町、越智町、あすみが丘、大野台、あすみが丘東
4	おゆみ野地区部会	おゆみ野有吉、おゆみ野1~5丁目、おゆみ野6丁目の一部、おゆみ野中央、おゆみ野南

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
<p>椎名地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 4,983人・2,206世帯</p> <p>【町内自治会数】 17町内自治会</p> <p>【高齢化率】 23.6%</p> <p>【地域の特徴】 田畑が多くある農村地域と古い住宅団地、新興住宅地が混在する町。全体の高齢化率は23.6%。局地的には30%を超えて高齢化が急速に進んでいる地域もある。</p>	⑪ 地域と学校との交流	1・8	<p>椎名小学校と連携した事業を展開する。</p> <p>①食育支援 ②ものづくり教室の支援 ③伝承文化「羯鼓舞」の発表会 ④福祉の出席講座を開催 ⑤学力アップのための支援と交流 ⑥高齢者施設と学校との交流</p>	<p>①稲作体験から太巻き寿司づくり、ふれあい食事会への参加を実施した。 ②しいのみ祭りの開催 ③地域の方へ子ども達の「羯鼓舞」を実施。 ④「肢体不自由者(義足体験)」「視覚障がい者」「聴覚障がい者」とのふれあいを通じての福祉体験講座の実施 ⑤漢字パワーアップ授業を実施し、地域の方が授業支援 ⑥学校イベントや施設のイベントを通じた交流を実施。</p>	A	<p>「地域と学校との交流」については、目標を達成できたが、「見守り活動の推進」については古市場団地の3町内自治会で活動が開始したに留まった。引き続き、町内自治会など様々な地域内の会議で見守り活動を理解してもらうためのPRをしていかなければならない。</p>
<p>【地域の特徴】 田畑が多くある農村地域と古い住宅団地、新興住宅地が混在する町。全体の高齢化率は23.6%。局地的には30%を超えて高齢化が急速に進んでいる地域もある。</p>			<p>地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地地区の拡充に努める。また若い世代への理解を進める。</p>	<p>古市場団地の3町内自治会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、声かけなどによる見守り活動に取り組んだが、残りの活動未実施地区を組織化するまでには至らなかった。椎名地区は旧農村集落が多いため、昔から「向こう三軒両隣」の絆が強く、支え合う風が出来ており、なかなか組織化には至らない傾向にある。</p>	C	
<p>土気地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 45,353人・18,879世帯</p> <p>【町内自治会数】 46町内自治会</p> <p>【高齢化率】 21.5%</p> <p>【地域の特徴】 4中学校区からなる地区であるため高齢化の進み方も地域にばらつきがある。できる限り新旧住民が協調できる事業の進め方をしている。</p>	③⑧ 見守り活動の推進	4・5	<p>地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地地区の拡充に努める。</p>	<p>2町内自治会(大椎台自治会・あすみが丘第1自治会)では活動が進展しているが、新たな組織の立ち上げまで至らず継続して検討していくことになった。 また、既存の各種活動に加え、支え合い活動が求められていることを機会ある度に訴え、新たな地区で組織化する動きが出てきている。</p>	C	<p>2町内自治会では活動をしているが、新たな活動の立ち上げに向け、町内自治会など様々な地域内の会議で見守り活動を理解してもらうためのPRをしていかなければならない。</p>
<p>【地域の特徴】 4中学校区からなる地区であるため高齢化の進み方も地域にばらつきがある。できる限り新旧住民が協調できる事業の進め方をしている。</p>			<p>地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地地区の拡充に努める。</p>	<p>7町内自治会(鎌取町内会・辺田町内会・コスモ誉田プレイズビル自治会・誉田2丁目町内会・平山町第一自治会・誉田1丁目町内会・平山町内会)で独居高齢者の見守り活動が組織として立ち上がり、活動を開始した。 昨年度、地区部会内に設置された見守り活動推進委員会を中心に未実施地区への意識啓発は引き続き行った。</p>	S	
<p>誉田地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 29,600人・13,329世帯</p> <p>【町内自治会数】 31町内自治会</p> <p>【高齢化率】 27.3%</p> <p>【地域の特徴】 緑区の東西に広く位置する地区。北部は農村地域のため人口も少ないが誉田駅近くは宅地開発が進み若い世代も多い。</p>	③⑧ 見守り活動の推進	4・5	<p>地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地地区の拡充に努める。</p>	<p>7町内自治会(鎌取町内会・辺田町内会・コスモ誉田プレイズビル自治会・誉田2丁目町内会・平山町第一自治会・誉田1丁目町内会・平山町内会)で独居高齢者の見守り活動が組織として立ち上がり、活動を開始した。 昨年度、地区部会内に設置された見守り活動推進委員会を中心に未実施地区への意識啓発は引き続き行った。</p>	S	<p>目標を上回る数の自治会で活動を開始することができたが、高齢化率が高く活動の必要があると思われる地域もまだあることから、今後も町内自治会など様々な地域内の会議で見守り活動を理解してもらうためのPRをしていかなければならない。</p>
<p>【地域の特徴】 緑区の東西に広く位置する地区。北部は農村地域のため人口も少ないが誉田駅近くは宅地開発が進み若い世代も多い。</p>			<p>地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地地区の拡充に努める。</p>	<p>7町内自治会(鎌取町内会・辺田町内会・コスモ誉田プレイズビル自治会・誉田2丁目町内会・平山町第一自治会・誉田1丁目町内会・平山町内会)で独居高齢者の見守り活動が組織として立ち上がり、活動を開始した。 昨年度、地区部会内に設置された見守り活動推進委員会を中心に未実施地区への意識啓発は引き続き行った。</p>	S	

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	第3期の総括・今後の課題
おゆみ野地区部会エリア	④ 高齢者が集う場の開設・拡充	1・2・3	ふれあい散歩クラブを実施し高齢者の健康保持し、住民同士が集う場の充実に努める。また相談の場としても機能するようしていく。	地区部会が、あんしんケアセンターと連携し、散歩クラブを4回(113名)実施した。今年度は悪天候のため、4回のうち2回は室内での体操や健康講座の実施となり、参加人数は前年を下回ったが、目標回数は達成することができた。会場内ではあんしんケアセンター職員による相談も実施できた。	A	概ね目標は達成できたが、若い世代や本来参加して欲しい引きこもりがちな高齢者の参加を促すためのPR方法を今後も検討していく。
【人口・世帯数】						
48,720人・18,866世帯						
4						
65町内自治会						
【高齢化率】						
12.7%						
【地域の特徴】						
街びらきして30年。まだ住宅開発が続いている地区だが、30年前に開発された地域は高齢化が目立ってきている。見守り活動等は一部自治会が取り組んでいる。						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した居場所・交流の場づくりが進んだ。 ・先進事例を参考に、たすけあい活動や見守り活動の取組みが進んだ。
第3期の総括・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活課題の解決に向け、地域資源、社会資源の活用や専門機関と連携した取組みが進んだ。 ・他区より設置が進む地域運営委員会との連携を深め、地域生活課題に関する情報共有を図り、担い手確保や協働事業などに取り組む必要がある。

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
 B: 一部目標を達成した。(5~7割)
 C: 大きく目標を下回った。(〜4割)

◆取組みテーマ別達成状況

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	12	<ul style="list-style-type: none"> ・地域カフェの設置(3地区) ・活動拠点の確保(3地区) ・あいさつ運動の実施(1地区) ・異世代交流行事の実施(1地区) 	S	1
			A	6
			B	5
			C	0
2 健康づくり	-	-	S	0
			A	0
			B	0
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる情報提供(1地区) 	S	0
			A	0
			B	1
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	4	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護研究会の開催(1地区) ・地域運営委員会との連携強化(1地区) ・たすけあい活動の利用者増(1地区) 	S	0
			A	4
			B	0
			C	0
5 見守り体制の構築	7	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんカードの配布(1地区) ・見守り活動の開始(2地区) 	S	1
			A	4
			B	2
			C	0
6 防犯に対する取組み	2	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所のパトロール(2地区) 	S	0
			A	0
			B	2
			C	0
7 防災に対する取組み	4	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の実施(2地区) ・災害対応マニュアルの作成(2地区) 	S	0
			A	3
			B	1
			C	0
8 福祉教育・啓発	1	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を対象としたEX講座を開催(1地区) 	S	0
			A	1
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決のためのボランティア講座実施(1地区) 	S	0
			A	0
			B	2
			C	0
合計	33		S	2
			A	18
			B	13
			C	0

<参考>

◆美浜区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日		主な議題
平成29年度	第1回 平成29年6月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会エリアの重点取組項目の進捗状況について ・第4期美浜区支え合いのまち推進計画の策定について
	第2回 平成29年9月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4期美浜区支え合いのまち推進計画(案)について
	第3回 平成30年3月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・美浜区支え合いのまち推進計画(第3期美浜区地域福祉計画)の総括について ・美浜区支え合いのまち推進計画(第4期美浜区地域福祉計画)について ・美浜区支え合いのまち推進計画(第4期美浜区地域福祉計画)の推進について ・支え合いのまち千葉推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)の推進について

◆美浜区内の地区部会エリア数 … 8

No.	地区部会名	活動対象区域
1	稲毛海岸地区部会	稲毛海岸
2	幸町2丁目地区部会	幸町2丁目、新港の一部
3	幸町1丁目地区部会	幸町1丁目、新港の一部
4	高洲・高浜地区部会	高洲、高浜
5	真砂地区部会	真砂
6	磯辺地区部会	磯辺
7	幕張西地区部会	幕張西、浜田
8	打瀬地区部会	打瀬

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
- A:概ね目標を達成した。(8~10割)
- B:一部目標を達成した。(5~7割)
- C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	3年間の総括・振り返り
稲毛海岸地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・稲毛団地自治会で取り組まれている「見守りネットワーク」(安心カード、ゴミ出し支援、見守り活動、たすけあい活動)を他地域にも構築する。	・地区部会エリア内のマンションや団地において、町内会費の徴収等で各戸を訪問する際に自然なかたちで見守りネットワークの構築されている状況が確認できた。 ・稲毛海岸3丁目団地自治会において「稲三サポートの会」が立ちあがった。	S	・地区部会エリアのマンションや団地において町内会費の徴収時などに自然な形で見守り活動が行われている。 ・稲毛団地での取組みがきっかけとなり、稲毛海岸3丁目団地自治会のたすけあい活動がスタートする運びとなった。 ・新興マンション及び住宅地から地域活動に積極的に参加する住民が増えつつある。
【人口・世帯数】						
8,600人 3,589世帯						
【町内自治会数】						
14町内自治会						
【高齢化率】						
16.9%						
【地域の特徴】	地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。					
幸町2丁目地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・地域資源を活用した高齢者向け講座の開催 ・地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み	・「幸町2丁目のまちづくり・生活支援等に関するアンケート」結果をもとに、UR都市機構の支援により、幸町中央診療所に階段昇降機が配置された。 ・URコミュニティや地区部会の主催する高齢者向けの講座を開催した。 ・地域で生じた問題について、幸町2丁目連携会議出席メンバー間の連携により対応することができた。	A	・幸町2丁目連携会議を通じて、様々な団体や機関と地域生活課題の共有と情報交換を進めることができた。 ・URコミュニティ千葉住まいセンター等の協力により「高齢者の暮らし安心支援ガイド<千葉幸町団地版>」、あんしんケアセンター幸町等との協力により「高齢者の暮らし安心サポートガイド<幸町団地15街区版>」が完成した。
【人口・世帯数】						
12,958人 6,499世帯	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・活動拠点の確保	・千葉市との交渉により、「幸町老人センター」の使用が3年間延期された。 ・地域内の高齢者福祉施設内、地域交流スペースにオープンした地域カフェが、地域の交流の場として活用されている。	S	・地域カフェが地域の交流の場として定着し、新たな住民同士の繋がりを生んでいる。 ・住民に解りやすく広報するため、「美浜区支え合いのまち推進計画」と「幸町2丁目安心居住プラン」の整合を図り、取組項目を設定することができた。
【町内自治会数】						
13町内自治会	東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニナートなどが集積する。					
【高齢化率】						
26.8%						
【地域の特徴】						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	3年間の総括・振り返り	
幸町一丁目地区部会エリア 【人口・世帯数】 8,977人 3,958世帯 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 22.7% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	⑫ 空き店舗フリースペースの確保と管理運営体制の検討	1	・地域カフェ(コミュニティカフェ)の運営	・「幸町1丁目ふれあい交流館」において、地域カフェ(ふれあいサロン)、COCO(小中学生の放課後の居場所づくり)、ふれあいきいきサロン(ひだまり)等、地域の交流の場として活用されている。	A	・「幸町1丁目ふれあい交流館」を活用し、地域生活課題に対応した様々な事業が開催された。 ・平成27年(26年度)1月より、施設型によるふれあい食事サービスが再開された。 ・医療介護研究会の開催を通じて、地域包括ケアシステム構築に向けた学習が進んだ。	
	⑬ 地域での助け合い活動の推進	4	・研究会の開催(ニーズの発掘・検討・担い手の確保) ・地域包括ケアシステム構築に向けた3分科会設立	・1月、2月、3月に医療介護研究会を開催した。1月は前部会長による、要支援2の実体験。2月は幸町薬局の薬剤師による、薬と調剤薬局の役割。3月はあんしんケアセンター幸町職員による講座。	A		
高洲・高浜地区部会エリア 【人口・世帯数】 40,097人 18,856世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 26.4% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	1	・異世代交流の拡大	・「こどもフェスタ」(年2回 7・2月)、「ネイチャーゲーム」(年1回 10月)を開催。地域の高齢者に参加を呼びかけ、昔遊び等を通して、児童と高齢者の交流が図れた。	B	・高浜公民館等、12ヶ所のサロンが開設できた。 ・地域資源(機関・人材)を活用した高齢者向け講座を企画・開催できた。	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・認知症講座の開催 ・地域資源を活用した高齢者向け講座の開催	・高洲第3小学校避難所運営委員会委員長を講師として、「防災講習会」を開催(36人参加)、高洲コミュニティセンターとあんしんケアセンター高洲との共催により「認知症講座」を開催(99人参加)、高洲コミュニティセンターとの共催により、「ポッチャ体験講座」を10月に開催した。(41人参加)	A		
	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・サロン活動の充実 ・拠点の確保	・千葉市社協美浜区事務所と共催で、サロン開催に向けたボランティア講座を開催し、平成29年度から、高浜公民館を拠点にしたいきいきサロンを設置した。	A		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
- A:概ね目標を達成した。(8～10割)
- B:一部目標を達成した。(5～7割)
- C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	3年間の総括・振り返り		
真砂地区部会エリア 【人口・世帯数】 24,791人、11,699世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 29.7% 【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホールとの複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	1	・「手づくり公園まさご」を活用した交流の場の検討。 ・ラジオ体操やウォーキング活動のPR。	・手づくり公園まさごにて、「手づくり公園フェスタ」等イベントが開催され、住民同士の交流が図れた。 ・ラジオ体操は、真砂中央公園で毎日開催され、約30人ほどの地域住民が参加している。	A	・地域運営委員会が設置され、地域の各団体間の課題共有、情報交換が進んだ。 ・ささえあいまさごの依頼件数が年々増加し、福祉課題が顕在化するとともに、活動拠点や担い手の確保等、安定した運営基盤の構築が課題となっている。		
	② 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	4	・地域運営委員会による各団体の連携強化	・定期的に定例会を開催し、地域の課題検討や情報共有を図った。	A			
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・見守り体制の充実を図る。	・「ささえあいまさご」利用者を対象に、さりげない見守り活動を行った。	B			
	④ 防犯情報の共有・身近な防犯活動の実施	6	・防犯パトロールの担い手確保を図る。 ・セーフティーウォッチャーの担い手確保を図る。 ・子ども110番の家の担い手確保を図る。	・連協、学校、青少年育成委員会等が連携し、事故・犯罪等の防止活動に努めている。 ・子ども110番の家は619か所の登録となった。	B			
	⑦ 誰もが身近に得ることができ、わかりやすい情報の発信	3	・浸透しやすい情報提供方法の検討。	・31地区連協ホームページにて、地区内の団体の情報提供を行った。	B			
	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・ふれあいきいきサロンや茶話会等の充実。	・地域の集会所やコミュニティセンター等を活用しサロン活動等の取り組みが進んだ。	B			
	⑭ 子育て支援活動の推進	1	・子育て支援団体及び活動の把握、情報提供。	・「子育てみはマップ」を活用し情報提供を行った。	B			
	⑯ 地域での助け合い活動の推進	4	・「ささえあいまさご」の活動の充実。	・依頼件数は2月末現在で773件で前年同月比263件増となった。	A			
	磯辺地区部会エリア 【人口・世帯数】 17,143人、7,185世帯 【町内自治会数】 27町内自治会 【高齢化率】 37.2% 【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・福祉協力員ネットワーク活動の進化と拡充を図る。	・協力員及び見守り希望者とも微減となっているため、今後のあり方について、検討・協議を進めた。		B	・地域運営委員会が設置され、地域の各団体間の課題共有、情報交換が進んだ。 ・3年間で3ヶ所のサロンが新規に開設された。 ・地域での支え合い活動の実施に向けた準備を進め、平成30年度より7自治会でスタートすることとなった。
		⑤ 地域ぐるみの防災訓練、避難誘導の実施	7	・避難所運営委員会の設置。 ・地域ぐるみの防災訓練の実施。	・新たに磯辺スポーツセンターの避難所運営委員会が設置された。 ・九都県市合同防災訓練では、磯辺中学校を重点訓練会場として避難所開設訓練が行われた。		A	
⑥ 災害発生時の対応マニュアル整備		7	・避難所運営委員会での災害対応マニュアルの作成。	・各避難所運営委員会単位でマニュアルを作成した。	A			
⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり		1	・自治会集会所を活用したサロンの開催。	・新たに、検見川ハイツ集会所、海浜コートビレッジ集会所、磯辺第一団地集会所を拠点にサロンを開設した。	A			

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	3年間の総括・振り返り
幕張西地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・見守り活動の実施。	・2町内自治会で説明会を開催し、うち1町内自治会で実施することとなった。	A	・地域運営委員会が設置され、地域の各団体間の課題共有、情報交換が進んだ。
⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり						
【人口・世帯数】						
12,100人、4,729世帯						
【町内自治会数】						
15町内自治会						
【高齢化率】						
19.1%						
【地域の特徴】						
区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成29年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8~10割)
 B:一部目標を達成した。(5~7割)
 C:大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	29年度の目標	29年度の実績	達成状況	3年間の総括・振り返り
打瀬地区部会エリア	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	1	・あいさつ運動のPR	・子ども円卓会議と連携して取り組み、学校でも推進のために児童に声かけを行った。	B	・地域運営委員会が設置され、地域の各団体間の課題共有、情報交換が進んだ。 ・安心カードの啓発・普及により、登録者が399人となった。 ・地域でのサロン活動が活発に行われ、交流の場が増えた。
【人口・世帯数】	② 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	4	・地域団体のネットワークの更なる構築及び活動のPR	・去年に引き続きベイトウンマラソン、行政を巻き込んだクリーン作戦を開催した。こども街歩きは雨天の為、中止となった。 ・5月上旬には、千葉西警察署と連携し、自転車安全乗り方講習会を開催した。	A	
25,526人、8,927世帯	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・高齢者実態調査時の安心カードの啓発、普及 ・町内自治会への地域活動及び諸制度の理解及び利用促進	・新たに57人の方が、安心カードの登録を行った(前年度は22人)。 ・地区部会長と地区民児協会長が見守り活動の推進や避難行動要援護者名簿の利用促進のため、18か所の街区代表者へ訪問を実施した。	A	
【町内自治会数】	④ 防犯情報の共有・身近な防犯活動の実施	6	・防犯パトロールの充実	・毎月防犯委員が街路灯の確認をした。また、青少年育成委員会と連携し、公園やメイン道路に防犯上問題がないか確認し、危険個所については、所管課への指摘を行った。	B	
24町内自治会	⑤ 地域ぐるみの防災訓練、避難誘導の実施	7	・避難所開設訓練の実施	・九都県市合同防災訓練に際し、美浜打瀬小学校にて避難所開設訓練を実施した。	B	
【高齢化率】	⑥ 災害発生時の対応マニュアル整備	7	・災害発生時の対応マニュアルの必要性についてPR ・災害発生時の対応マニュアルの整備	・マニュアル整備を進める街区も増えてきている。整備済み街区のマニュアル等を未整備街区へ情報提供をした。	A	
7.6%	⑫ 空き店舗等フリースペースの確保と管理運営体制の検討	1	・地域連携センター及び公民館の管理運営体制の検討	・地域連携センターの管理・運営を行う運営会議にて、課題等を検討し適正運営に努めた。	A	
【地域の特徴】	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・交流の場づくりの拡充及び検討	・地域連携センターを会場に手芸サロンを開設した。	A	
東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。中心部には図書館と公民館の複合施設である「ベイトウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ベイトウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	⑳ 支え合い意識の醸成	8	・福祉教育に関する勉強会の支援	・小学校の昔遊びや中学校のEX講座など、積極的に支援を行った。	A	
	㉑ ボランティア人材の育成	9	・地域生活課題に即したボランティア講座の開催	・「高齢者の健康を効果的に維持する方法について」というテーマで講座を開催した。	B	
	㉒ ボランティア活動への参加促進	9	・地域生活課題に即したボランティア講座の開催	・今後増加する認知症の理解を深めるため「認知症の予防について」というテーマで講座を開催した。	B	